

「体験の風をおこそう」運動[®]

国立青少年教育施設における傷病の概況

(令和4年度調査)

令和6年3月

目 次

I. 調査の概要

- 1. 調査の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 2. 調査対象とした傷病の条件・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 3. 調査期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 4. 調査対象とした施設・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 5. 調査実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 6. 調査内容・・・・・・・・・・・・・・・・ p 1
- 7. 本書を読むに当たって・・・・・・・・ p 1

II. 調査結果の概要

- 1. 調査結果のポイント・・・・・・・・ p 2
 - (1) 施設で発生した傷病の概況
 - (2) 負傷の概況
 - (3) 疾病の概況
 - (4) 負傷の発生件数・割合の推移（前回調査との比較）
- 2. 傷病の特徴と今後の安全対策・・・・・・・・ p 4
 - (1) 負傷の特徴と安全対策
 - (2) 疾病の特徴と安全対策

III. 調査結果

- 1. 施設で発生した傷病の状況・・・・・・・・ p 6
 - (1) 施設で発生した傷病の件数
 - (2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合
 - (3) 月別にみた傷病の発生件数・割合
 - (4) 利用期間別にみた発生件数・割合
 - (5) 時間別にみた発生件数・割合
 - (6) 活動内容別にみた発生件数・割合
 - (7) 場所別にみた発生件数・割合
 - (8) 天候別にみた発生件数・割合
 - (9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合
- 2. 負傷の概況・・・・・・・・ p 12
 - (1) 負傷の状態
 - (2) 症状別にみた負傷の部位、程度、要因
 - (3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ② 月別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ④ 活動内容別、場所別・症状別にみた負傷の発生件数
 - ⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数

- (4) 負傷した時の状況
 - ① 負傷の多かった活動の事例（代表的な事例を抜粋して掲載）
 - ② その他の活動で重傷だった事例
- 3. 疾病の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 25
 - (1) 疾病の状態
 - (2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応
 - (3) 状況別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ② 月別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ④ 活動内容別・場所別・症状別にみた疾病の発生件数
 - ⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数
- 4. 熱中症による発熱の発生状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 34
 - (1) 熱中症の分析について
 - (2) 年齢期別・性別にみた熱中症（発熱）の発生状況
 - (3) 状況別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生状況
 - ① 月別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合
 - ② 天候別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合
 - ③ 時間別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合
 - ④ 活動内容別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合
 - ⑤ 要因別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合
 - ⑥ 病院受診別・環境別にみた熱中症による発熱の発生件数・割合
 - ⑦ 処置・静養後の対応別・環境別にみた熱中症による発熱の発生件数・割合

IV. 傷病の特徴と今後の安全対策

- 1. 負傷の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 40
 - (1) 負傷の特徴
 - (2) 今後の安全対策
- 2. 疾病の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 41
 - (1) 疾病の特徴
 - (2) 今後の安全対策
- 3. 熱中症（発熱）の特徴と安全対策・・・・・・・・・・・・・・・・ p 41
 - (1) 熱中症（発熱）の特徴
 - (2) 今後の安全対策

参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p 43

傷病記録
普及啓発用チラシ

I. 調査の概要

1. 調査の趣旨

本調査は、国立青少年教育施設で発生した傷病や事故の状況を把握し、その傾向や要因を検証することで、施設の安全管理の改善や安全対策の充実に資する基礎資料を得ることを目的としている。

2. 調査対象とした傷病の条件

研修期間中に発生した傷病もしくは活動等によって既往症が悪化した傷病のうち、以下のいずれかの状況に該当する傷病

- ・保健室や事務室で対応した傷病
- ・病院を受診した傷病（事務室を通さず、利用団体が直接病院に搬送した傷病も含む）
- ・活動現場等で施設職員が手当てした傷病

3. 調査期間

令和4年4月1日（金）～令和5年3月31日（金）

4. 調査対象とした施設

国立青少年教育振興機構が有する施設 27 施設（国立オリンピック記念青少年総合センターを除く）

5. 調査実施体制

国立青少年教育振興機構教育事業部事業企画課（調査・普及）
青少年教育研究センター（集計・分析）

6. 調査内容

- （1）傷病者の情報（氏名、性別、年齢）
- （2）傷病が発生した状況（日時、利用者数、天候、活動場所、活動内容、処置・静養後等）
- （3）けが（症状、部位、程度、けがをした時の状況）又は病気（症状、時期）
- （4）傷病の発生要因（本人、指導・引率者、装備等、環境）

7. 本書を読むに当たって

- ・複数の傷病が重複して発生した場合、最も当てはまる症状の一つを選んで回答しているため、副次的に発生した傷病は件数に含まれていない。

例：自転車で転倒し、手首を骨折、足を擦りむいた場合 → 骨折（手首）として集計

- ・重複回答や無回答によって回答が分からなかったものは「不明」として集計している。
- ・図表に示している回答比率（%）は小数点以下第2位を四捨五入しているため、その和が100.0%と一致しない場合がある。
- ・令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、①利用者の受入れ制限などの措置がとられ、利用者数が大幅に減少していること、②三密を避けるなどの感染防止対策により、活動内容に偏りが生じているなど、例年とは状況が異なることに留意する必要がある。

II. 調査結果の概要

1. 調査結果のポイント

(1) 施設で発生した傷病の概況

- 令和4年度の国立青少年教育施設（国立オリンピック記念青少年センターを除く27施設）の利用者数は約136万人で、そのうち傷病の発生件数は1806件（負傷741件、疾病1065件）で、前年度（985件）に比べ、821件（負傷250件、疾病571件）増加^{*}した。[p6・表1-1]

※ 前年度は新型コロナウイルスの流行により利用者数が大幅に減少したが、令和4年度は利用者数が回復傾向にあることから、傷病の発生件数の増加もその影響を受けていることに留意する必要がある。

- 傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷356件、疾病532件）が最も多く、傷病の発生件数のおよそ5割弱を占めていた。[p6・表1-2]

(2) 負傷の概況

- 負傷で多かった症状は「打撲」（158件）で、次いで「ねんざ」（116件）、「虫さされ」（95件）であった [p12・表2-1-1]。症状ごとに負傷した部位と負傷の要因をみると、それぞれ多かった部位や要因は表1-1のとおりである [p14・表2-2-1、p15・表2-2-3]。

表1-1. 負傷の症状別にみた負傷した部位と負傷の要因（上位3項目）

症 状	部 位	要 因
1. 「打撲」 (158件)	1. 「頭」(53件) 2. 「膝」(18件) 3. 「顔」(16件)	1. 「不注意(本人)」(83件) 2. 「不安定さ・滑りやすさ(環境)」(41件) 3. 「不慣れ(本人)」(37件)
2. 「ねんざ」 (116件)	1. 「足首」(85件) 2. 「手首」(14件) 3. 「膝」「足・指」(4件)	1. 「不注意(本人)」(44件) 2. 「不慣れ(本人)」(26件) 3. 「失敗(本人)」(22件)
3. 「虫さされ」 (95件)	1. 「手・指」(19件) 2. 「足首」(16件) 3. 「大腿」「足・指」(10件)	1. 「虫・動物(環境)」(95件) 2. 「不適切な服装(装備)」(10件) 3. 「注意不足(指導・引率者)」(9件)

- 負傷の発生件数が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」(101件)、次いで「オリエンテーリング・ウォークラリー」(81件)、「自由時間」(75件)であった。[p9・表1-6]
- 活動内容ごとに発生した負傷の症状をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ねんざ」(31件)、「打撲」(26件)、「虫さされ」(9件)、オリエンテーリング・ウォークラリーでは「ねんざ」と「虫さされ」(ともに22件)、「打撲」と「すり傷」(ともに10件)、自由時間では「打撲」(23件)、「きり傷」(18件)、「すり傷」と「虫さされ」(ともに8件)が多くなっていた。[p19・表2-3-4]

(3) 疾病の概況

- 疾病で多かった症状は「発熱」(430件)で、次いで「頭痛」(152件)、「嘔吐」(114件)であった [p25・表3-1-1]。発熱のうち、「熱中症による」ものは65件であった。
- 症状ごとに発症した要因をみると、発熱では「疲労(本人)」(213件)、「病原体(ウイルス等)(環境)」(104件)、「気温(本人)」(70件)、頭痛では「疲労(本人)」(98件)、「気温(環境)」(47件)、「日差し(環境)」と「不安・心配・緊張(本人)」(ともに26件)、嘔吐では

「疲労（本人）」（53件）、「不安・心配・緊張（本人）」（28件）、「寝不足（本人）」（25件）が多くなっていた。[p26・表3-2-1]

（4）負傷の発生件数・割合の推移（前回調査との比較）

- ・症状別にみると（表1-2）、前回調査に続き、「打撲」（21.3%）が高い割合を占めている。また、前回調査に比べ、「ねんざ」（15.7%）や「虫さされ」（12.8%）の占める割合が高くなり、それぞれ負傷に占める割合の順位が上がっている。
- ・活動内容別にみると（表1-3）、「スポーツ活動」（13.6%）が占める割合は高いものの、前回調査に比べ、約5ポイント減少している。一方、前回5位だった「オリエンテーリング・ウォークラリー」（10.9%）の占める割合が高くなり、「スポーツ活動」に次いで高くなっている。
- ・活動場所別にみると（表1-4）、過去の調査と同様、「屋外運動コース」「体育館・プレイホール・講堂」「グラウンド・広場・コート等」「宿泊室」「野外炊飯場」における負傷が上位を占めていた。

表1-2. 症状別負傷発生件数・割合の推移（上位10項目）

令和3年度(前回調査)				令和4年度(今回調査)			
順位	症状	件	%	順位	症状	件	%
1	打撲	90	18.3	1	打撲	158	21.3
2	きり傷	73	14.9	2	ねんざ	116	15.7
3	ねんざ	67	13.6	3	虫さされ	95	12.8
4	やけど	59	12.0	4	きり傷	80	10.8
5	虫さされ	53	10.8	5	やけど	76	10.3
6	すり傷	39	7.9	6	すり傷	72	9.7
7	骨折	30	6.1	7	骨折	25	3.4
8	さし傷	22	4.5	7	さし傷	25	3.4
9	突き指	13	2.6	9	突き指	13	1.8
10	鼻血	5	1.0	10	鼻血	12	1.6

表1-3. 活動内容別負傷発生件数・割合の推移（上位10項目）

令和3年度(前回調査)				令和4年度(今回調査)			
順位	活動	件	%	順位	活動	件	%
1	スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	90	18.3	1	スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	101	13.6
2	野外炊事	66	13.4	2	オリエンテーリング・ウォークラリー	81	10.9
3	創作活動(クラフト等)	42	8.6	3	自由時間	75	10.1
4	自由時間	38	7.7	4	野外炊事	58	7.8
5	オリエンテーリング・ウォークラリー	35	7.1	5	登山・ハイキング	55	7.4
6	登山・ハイキング	34	6.9	6	創作活動(クラフト等)	48	6.5
7	移動中	29	5.9	7	移動中	43	5.8
8	アドベンチャープログラム・インシアティブゲーム	14	2.9	8	研修・学習活動	27	3.6
8	キャンプファイヤー・キャンプセレモニー	14	2.9	9	アドベンチャープログラム・インシアティブゲーム	25	3.4
8	研修・学習活動	14	2.9	10	カッター・カヌー・ボート・ヨット	24	3.2
8	就寝時間(起床時も含む)	14	2.9	10	就寝時間(起床時も含む)	24	3.2

表 1-4. 活動場所別負傷発生件数・割合の推移（上位 10 項目）

令和3年度(前回調査)

順位	場所	件	%
1	屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	82	16.7
2	体育館・プレイホール・講堂	74	15.1
2	グラウンド・広場・コート等	74	15.1
4	野外炊飯場	64	13.0
5	宿泊室	36	7.3
6	通路・階段	28	5.7
7	工作室・調理室等	23	4.7
8	研修室・オリエンテーション室	22	4.5
8	敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	22	4.5
10	海洋施設	12	2.4

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

令和4年度(今回調査)

順位	場所	件	%
1	屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	166	22.4
2	体育館・プレイホール・講堂	105	14.2
3	グラウンド・広場・コート等	100	13.5
4	宿泊室	81	10.9
5	野外炊飯場	58	7.8
6	研修室・オリエンテーション室	51	6.9
7	海洋施設	41	5.5
8	通路・階段	34	4.6
9	敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	30	4.0
10	浴室	19	2.6



2. 傷病の特徴と今後の安全対策

(1) 負傷の特徴と安全対策

<負傷の特徴>

- 負傷の多かった活動の代表的な事例を取り上げ、負傷した状況（主に重傷や軽傷）をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では接触プレーによる骨折や靭帯損傷・断裂、打撲、オリエンテーリング・ウォークラリーでは転倒による手の骨折やハチやダニの虫さされ、自由時間ではベッドやロフトからの転落、移動中の衝突・転倒による骨折やきり傷、打撲等といった負傷が目立っている。[p22]
- 負傷が発生した時間をみると、活動（午前）・活動（午後）ともに後半の時間帯になるにつれ、負傷の割合が高くなる傾向がみられる。[p8・表 1-5]
- 負傷の要因をみると、不注意、不慣れ、失敗といった本人の要因が5割強を占めており、虫・動植物、不安定さ・滑りやすさといった環境要因、注意不足や指導不足といった指導・引率者の要因はそれぞれ2割弱を占めている。[p13・表 2-1-5]

<今後の安全対策>

- 指導者は、参加者に対し、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかなど）を徹底し、安全意識（自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等）の向上に努めるようにする。
- 指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険（リスク）の発見、把握に努めるようにする。特に、活動が後半になるにつれ、負傷する割合が高くなる傾向がみられることから、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。
- 施設では、事前打ち合わせの際に、施設で起きやすい事故やけがとその安全対策についてきちんと説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるよう支援する。

(2) 疾病の特徴と安全対策

<疾病の特徴>

- 発症した症状をみると、発熱、頭痛、嘔吐、吐き気、腹痛が上位を占めており、いずれの症状も「疲労」が主な要因として挙げられている。その他、発熱や頭痛では気温、嘔吐や腹痛では不安・心配・緊張といった要因も挙げられていた。[p26・表 3-2-1]

- 疾病の申し出があった時間をみると、他の時間帯に比べ、起床・朝食等や活動（午前）の時間帯の割合が高い傾向がみられる。[p30・表 3-3-3]
- 発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の約 5 割は帰宅している。[p27・表 3-2-3]

<今後の安全対策>

- 施設での生活は、普段の生活とは異なるため、慣れない環境による不安や緊張で寝不足になることもある。計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるようにする。
- 利用期間中は、朝の時間帯を中心に定期的に健康チェックを行い、疲れている様子がみられる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。
- 特に、夏季に屋外でスポーツ活動を行う場合は熱中症に注意し、「気温・湿度が高い日は、長い時間、屋外で活動しない」「適宜、風通しのよい涼しい場所で休憩する」など、熱中症の正しい予防法を学び、普段から気をつけるようにする。

(3) 熱中症（発熱）の特徴と安全対策

<熱中症（発熱）の特徴>

- 熱中症（発熱）の 8 割強は 6 月～9 月の 4 か月間で起きており、6 月から 7 月にかけて多くなっている。[p35・表 4-3-1]
- 屋外活動での熱中症（発熱）の発生は 10 時～16 時の時間帯で多くなっており、屋内活動では 19 時～22 時の夜の活動の時間帯で熱中症（発熱）の発生が多くなっている。[p36・表 4-3-3]
- 屋外活動で発生した熱中症（発熱）の要因は、気温や日差しといった環境に係る要因だけでなく、疲労や体力不足、不慣れといった本人に係る要因も高い割合となっている。[p38・表 4-3-5]
- 屋内活動で起きた熱中症（発熱）の 6 割強は、処置・静養後に帰宅となっている。[p39・表 4-3-7]

<今後の安全対策>

- 熱中症を予防するには、気温や日差しといった環境にだけ目を向けるのではなく、疲労や体力不足、不慣れ、不安・緊張といった本人の様子もよく観察し、状況に応じて体調確認をしながら活動を行うようにする。
 - ・登山やオリエンテーリングなど体力を要する野外活動を行う際は、当日の環境と参加者の体力や疲労具合等を考慮しながら活動時間を調整したり、活動内容を変更したりする。
 - ・屋外活動では、11 時や 15 時に熱中症の発生が多くなることを念頭におき、活動の状況や参加者の様子に合わせて休憩や水分補給、体調確認する時間をしっかり設けるようにする。
- 熱中症は日中の野外活動だけでなく、夜に行う屋内活動や就寝中でも起きている。屋内活動で起きた熱中症の多くは静養後に帰宅し活動を継続できなくなることから、屋内活動の熱中症予防は安全・安心な環境づくりにおいて重要な課題である。
 - ・屋内活動を行う際は、室内の気温や湿度、風通しなどをよく確認し、活動環境の状態や参加者の様子を見ながら、適宜、休憩や水分補給、体調確認する時間を設けるようにする。
 - ・宿泊場所の室温や湿度が高く、風通しが悪い場合はエアコンをつけたり、扇風機で室内に風の対流が起きるようにする。また、就寝前や起床時には水分補給をするようにし、就寝中は水筒を枕元に置いておくよう指導する。

Ⅲ. 調査結果

1. 施設で発生した傷病の概況

(1) 施設で発生した傷病の件数

令和4年度の国立青少年教育施設（以下、「施設」という。）の利用者数は約136万人（国立オリンピック記念青少年センターを除く）であった。前年度は新型コロナウイルスの流行により利用者数が大幅に減少したが、令和4年度も引き続き回復傾向にあり、利用者数は約50万人増となった。

施設で発生した傷病の件数（表1-1）は1806件（男性955件、女性851件）で、そのうち、研修支援※1が1727件（男性913件、女性814件）、教育事業※2が79件（男性42件、女性37件）であった。傷病の件数の内訳をみると、負傷が741件（男性416件、女性325件）、疾病が1065件（男性539件、女性526件）となっており、前年度（負傷491件、疾病494件）に比べ、負傷が250件、疾病が571件増加した。ただし、令和4年度は、前年度に比べ、利用者数も増加していることから、傷病の発生件数の増加もその影響を受けていることに留意する必要がある。

表1-1. 負傷・疾病別・事業種別傷病の発生件数 (件)

事業別	負 傷			疾 病			計		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性
研修支援	693	389	304	1034	524	510	1727	913	814
教育事業	48	27	21	31	15	16	79	42	37
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	741	416	325	1065	539	526	1806	955	851

※1 研修支援：学校や青少年団体、青少年教育関係者等の研修目的達成に向けて、広く学習の場や機会を提供し、より効果的なプログラムの提案や教育的指導、助言等を行うこと。

※2 教育事業：青少年の課題や国の政策課題に対応しつつ、立地条件及び地域特性やニーズに対応した、青少年の体験活動事業や青少年教育指導者等の養成研修事業を行うこと。

(2) 年齢期別にみた傷病の発生件数・割合

傷病者の年齢期ごとに傷病の発生件数をみたところ（表1-2）、負傷、疾病ともに「小学生」（負傷356件、疾病532件）が最も多く、傷病の発生件数のおよそ5割弱占めている。

表1-2. 年齢期別傷病発生件数・割合

年齢期	負 傷		疾 病		計	
	件	%	件	%	件	%
幼児	19	2.6	26	2.4	45	2.5
小学生	356	48.0	532	50.0	888	49.2
中学生	201	27.1	277	26.0	478	26.5
高校生	63	8.5	112	10.5	175	9.7
大学生等	54	7.3	72	6.8	126	7.0
社会人	47	6.3	46	4.3	93	5.1
その他	1	0.1	0	0.0	1	0.1
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	741	100.0	1065	100.0	1806	100.0

(3) 月別にみた傷病の発生件数・割合

月ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-3）、負傷では「6月」（119件）が最も多く、次いで「5月」と「7月」がともに 93 件となっており、施設で発生した負傷の 4 割強を占めていた。一方、疾病をみると、「6月」（199件）が最も多く、次いで「7月」（198件）、「8月」（140件）となっており、施設で発生した疾病のおよそ 5 割を占めていた。

表 1-3. 月別傷病発生件数・割合

月	負傷		疾病		計		
	件	%	件	%	件	%	
春・夏	4月	62	8.4	56	5.3	118	6.5
	5月	93	12.6	111	10.4	204	11.3
	6月	119	16.1	199	18.7	318	17.6
	7月	93	12.6	198	18.6	291	16.1
	8月	77	10.4	140	13.1	217	12.0
	9月	63	8.5	107	10.0	170	9.4
秋・冬	10月	68	9.2	92	8.6	160	8.9
	11月	57	7.7	45	4.2	102	5.6
	12月	18	2.4	25	2.3	43	2.4
	1月	21	2.8	19	1.8	40	2.2
	2月	37	5.0	35	3.3	72	4.0
	3月	33	4.5	38	3.6	71	3.9
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
計	741	100.0	1065	100.0	1806	100.0	

(4) 利用期間別にみた傷病の発生件数・割合

利用期間ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-4-1）、負傷、疾病ともに「1泊2日」（負傷 371件、疾病 530件）が最も多く、次いで「2泊3日」（負傷 240件、疾病 334件）が多くなっている。

泊数別に傷病の発生日をみたところ（表 1-4-2、表 1-4-3）、負傷・疾病ともに、1泊2日では「1日目」（負傷 244件、疾病 288件）、2泊3日では「2日目」（負傷 127件、疾病 174件）に傷病の発生が多くなる傾向がみられ、いずれも傷病発生件数のおよそ 5 割以上を占めていた。

表 1-4-1. 利用期間別傷病発生件数・割合

利用期間	負傷		疾病		計		
	件	%	件	%	件	%	
日帰り	57	7.7	56	5.3	113	6.3	
宿泊	1泊2日	371	50.1	530	49.8	901	49.9
	2泊3日	240	32.4	334	31.4	574	31.8
	3泊4日	33	4.5	54	5.1	87	4.8
	4泊5日	23	3.1	64	6.0	87	4.8
	5泊6日	7	0.9	9	0.8	16	0.9
	6泊7日	2	0.3	11	1.0	13	0.7
	7泊8日以上	7	0.9	6	0.6	13	0.7
不明	1	0.1	1	0.1	2	0.1	
計	741	100.0	1065	100.1	1806	100.0	

表 1-4-2. 泊数別・発生日別負傷発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	244	65.8	73	30.4	4	12.1	5	21.7
2日目	125	33.7	127	52.9	15	45.5	3	13.0
3日目			40	16.7	12	36.4	9	39.1
4日目					2	6.1	5	21.7
5日目							1	4.3
計	369	99.5	240	100.0	33	100.0	23	100.0

表 1-4-3. 泊数別・発生日別疾病発生件数・割合

発生日	1泊2日		2泊3日		3泊4日		4泊5日	
	件	%	件	%	件	%	件	%
1日目	288	54.3	104	31.1	12	22.2	6	9.4
2日目	241	45.5	174	52.1	20	37.0	18	28.1
3日目			56	16.8	19	35.2	22	34.4
4日目					3	5.6	16	25.0
5日目							2	3.1
計	529	100.0	334	100.0	54	100.0	64	100.0

(5) 時間別にみた傷病の発生件数・割合

時間ごとに傷病の発生件数をみところ（表 1-5）、負傷では「15時」（103件）が最も多く、次いで「11時」（99件）、「14時」（88件）となっている。一方、疾病では「8時」（84件）が最も多くなっており、次いで「7時」（80件）、「12時」（78件）となっている。

表 1-5. 時間別傷病発生件数・割合

時間		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
起床・朝食等	6時	7	0.9	42	3.9	49	2.7
	7時	8	1.1	80	7.5	88	4.9
	8時	19	2.6	84	7.9	103	5.7
活動(午前)	9時	14	1.9	68	6.4	82	4.5
	10時	71	9.6	73	6.9	144	8.0
	11時	99	13.4	71	6.7	170	9.4
昼食	12時	60	8.1	78	7.3	138	7.6
活動(午後)	13時	50	6.7	52	4.9	102	5.6
	14時	88	11.9	62	5.8	150	8.3
	15時	103	13.9	69	6.5	172	9.5
	16時	60	8.1	60	5.6	120	6.6
夕食・入浴等	17時	30	4.0	39	3.7	69	3.8
	18時	19	2.6	63	5.9	82	4.5
活動(夜)	19時	29	3.9	52	4.9	81	4.5
	20時	44	5.9	45	4.2	89	4.9
	21時	16	2.2	57	5.4	73	4.0
	22時	19	2.6	40	3.8	59	3.3
就寝	23～5時	5	0.7	30	2.8	35	1.9
不明		0	0.0	0	0.0	0	0.0
計		741	100.0	1065	100.0	1806	100.0

※上記(左)の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

(6) 活動内容別にみた傷病の発生件数・割合

活動内容ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-6）、負傷では「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（101 件）が最も多く、次いで「オリエンテーリング・ウォークラリー」（81 件）、「自由時間」（75 件）となっている。一方、疾病では「就寝時間（起床時間も含む）」と「自由時間」がともに 160 件と最も多くなっており、次いで「研修・学習活動」（142 件）、「食事」（109 件）と続いている。

表 1-6. 活動内容別傷病発生件数・割合

活動		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
陸上活動	登山・ハイキング	55	7.4	35	3.3	90	5.0
	オリエンテーリング・ウォークラリー	81	10.9	101	9.5	182	10.1
	クロスカントリー	0	0.0	2	0.2	2	0.1
	サイクリング・マウンテンバイク	11	1.5	8	0.8	19	1.1
	アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	25	3.4	23	2.2	48	2.7
	クライミング・ボルダリング	0	0.0	1	0.1	1	0.1
	スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）	101	13.6	70	6.6	171	9.5
水辺活動	カッター・カヌー・ボート・ヨット	24	3.2	21	2.0	45	2.5
	シュノーケリング・スキndaイビング	4	0.5	3	0.3	7	0.4
	海水浴・磯遊び・釣り	17	2.3	3	0.3	20	1.1
	沢登り・川遊び	14	1.9	7	0.7	21	1.2
雪上活動	スキー・スノーボード	7	0.9	3	0.3	10	0.6
	クロスカントリースキー	5	0.7	1	0.1	6	0.3
	雪上活動（雪遊び、スノーシュー等）	8	1.1	8	0.8	16	0.9
野外生活	野外炊事	58	7.8	29	2.7	87	4.8
	キャンプ（テント設営等）	1	0.1	2	0.2	3	0.2
	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	19	2.6	27	2.5	46	2.5
	創作活動（クラフト等）	48	6.5	25	2.3	73	4.0
	自然観察	9	1.2	7	0.7	16	0.9
研修	研修・学習活動	27	3.6	142	13.3	169	9.4
	奉仕活動	0	0.0	2	0.2	2	0.1
生活	自由時間	75	10.1	160	15.0	235	13.0
	つどい（朝・夕）	4	0.5	8	0.8	12	0.7
	清掃	7	0.9	19	1.8	26	1.4
	食事	15	2.0	109	10.2	124	6.9
	入浴	20	2.7	4	0.4	24	1.3
	就寝時間（起床時間も含む）	24	3.2	160	15.0	184	10.2
	移動中	43	5.8	35	3.3	78	4.3
その他	入所前	1	0.1	11	1.0	12	0.7
	その他	38	5.1	39	3.7	77	4.3
不明		0	0.0	0	0.0	0	0.0
計		741	100.0	1065	100.0	1806	100.0

(7) 場所別にみた傷病の発生件数・割合

場所ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-7）、負傷では「屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）」（166 件）が最も多く、次いで「体育館・プレイホール・講堂」（105 件）、「グラウンド・広場・コート等」（100 件）となっている。一方、疾病では、「宿泊室」（331 件）が最も多く、次いで「屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）」（136 件）、「体育館・プレイホール・講堂」（131 件）となっている。

表 1-7. 場所別傷病発生件数・割合

場所		負傷		疾病		計	
		件	%	件	%	件	%
生活エリア	宿泊室	81	10.9	331	31.1	412	22.8
	通路・階段	34	4.6	12	1.1	46	2.5
	食堂	9	1.2	97	9.1	106	5.9
	浴室	19	2.6	2	0.2	21	1.2
活動エリア	研修室・オリエンテーション室	51	6.9	106	10.0	157	8.7
	体育館・プレイホール・講堂	105	14.2	131	12.3	236	13.1
	武道場	6	0.8	3	0.3	9	0.5
	クライミングウォール	0	0.0	1	0.1	1	0.1
	工作室・調理室等	9	1.2	4	0.4	13	0.7
	野外炊飯場	58	7.8	28	2.6	86	4.8
	テントサイト	5	0.7	12	1.1	17	0.9
	グラウンド・広場・コート等	100	13.5	87	8.2	187	10.4
	屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）	166	22.4	136	12.8	302	16.7
	ロープスコース※	12	1.6	4	0.4	16	0.9
海洋施設	41	5.5	24	2.3	65	3.6	
その他	敷地外の活動場所（バス等の移動も含む）	30	4.0	67	6.3	97	5.4
	その他	15	2.0	20	1.9	35	1.9
不明		0	0.0	0	0.0	0	0.0
計		741	100.0	1065	100.0	1806	100.0

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

(8) 天候別にみた傷病の発生件数・割合

天候ごとに傷病の発生件数をみたところ（表 1-8）、負傷、疾病ともに「晴」（負傷 459 件、疾病 657 件）が最も多く、次いで「曇」（負傷 190 件、疾病 293 件）、「雨」（負傷 81 件、疾病 104 件）となっている。

表 1-8. 天候別傷病発生件数・割合

天候	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
晴	459	61.9	657	61.7	1116	61.8
曇	190	25.6	293	27.5	483	26.7
雨	81	10.9	104	9.8	185	10.2
雪	11	1.5	10	0.9	21	1.2
不明	0	0.0	1	0.1	1	0.1
計	741	100.0	1065	100.0	1806	100.0

(9) 病院受診、処置・静養後の対応別にみた傷病の発生件数・割合

負傷・疾病ごとに病院受診の有無をみたところ（表 1-9-1）、負傷では「無」が 537 件、「日帰り」が 200 件、「入院」が 1 件となっており、病院を受診（日帰り、入院）した割合は 3 割弱となっている。一方、疾病は「無」が 886 件、「日帰り」が 177 件、「入院」が 2 件となっており、病院の受診（日帰り、入院）は 17%程度となっている。

次に、負傷・疾病ごとに処置・静養後の対応をみたところ（表 1-9-2）、負傷では「活動継続」が 649 件、「帰宅」が 89 件と 9 割弱が活動を継続しているのに対し、疾病では「活動継続」が 525 件、「帰宅」が 539 件とおおよそ 5 割が帰宅している状況であった。

表 1-9-1. 病院受診別傷病発生件数・割合

病院の受診	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
無	537	72.5	886	83.2	1423	78.8
日帰り	200	27.0	177	16.6	377	20.9
入院	1	0.1	2	0.2	3	0.2
不明	3	0.4	0	0.0	3	0.2
計	741	100.0	1065	100.0	1806	100.0

表 1-9-2. 処置・静養後の対応別傷病発生件数・割合

処置・静養後	負傷		疾病		計	
	件	%	件	%	件	%
活動継続	649	87.6	525	49.3	1174	65.0
帰宅	89	12.0	539	50.6	628	34.8
不明	3	0.4	1	0.1	4	0.2
計	741	100.0	1065	100.0	1806	100.0

2. 負傷の概況

(1) 負傷の状態

負傷の症状をみると（表 2-1-1）、「打撲」（158 件）が最も多く、次いで「ねんざ」（116 件）、「虫さされ」（95 件）となっている。「虫さされ」の種類をみると（表 2-1-2）、「ハチ」（30 件）が最も多く 3 割強を占め、次いで「アブ・ブヨ」（26 件）、「ダニ」（15 件）となっている。

負傷した部位をみると（表 2-1-3）、「手・指」（180 件）が最も多く、次いで「足首」（116 件）、「頭」（71 件）となっている。各部位の区分でみると、「下肢部」（288 件）や「上肢部」（286 件）がそれぞれ 4 割弱を占めており、「頭部」（143 件）が 2 割弱となっている。

表 2-1-1. 症状別負傷発生件数・割合

症状	件	%
きり傷	80	10.8
さし傷	25	3.4
すり傷	72	9.7
やけど	76	10.3
日焼け	0	0.0
凍傷	0	0.0
打撲	158	21.3
突き指	13	1.8
ねんざ	116	15.7
靭帯損傷・断裂	8	1.1
脱臼	2	0.3
骨折	25	3.4
鼻血	12	1.6
歯の破折	2	0.3
眼のけが	6	0.8
虫さされ	95	12.8
かぶれ	4	0.5
気道閉塞・誤嚥	0	0.0
溺水	0	0.0
その他	47	6.3
計	741	100.0

<その他>

肉離れ、爪はがれ、靴擦れ、とげ等

表 2-1-3. 部位別負傷発生件数・割合

部位	件	%	%	
頭部	頭	71	9.6	19.2
	顔	50	6.7	
	眼	12	1.6	
	首	10	1.3	
上肢部	肩	9	1.2	38.5
	上腕	12	1.6	
	肘	18	2.4	
	前腕	29	3.9	
	手首	38	5.1	
	手・指	180	24.3	
体幹部	胸	2	0.3	3.1
	腹	3	0.4	
	背中	8	1.1	
	腰	10	1.3	
下肢部	尻	3	0.4	38.8
	大腿	18	2.4	
	膝	61	8.2	
	下腿	30	4.0	
	足首	116	15.7	
	足・指	60	8.1	
全身	0	0.0	0.0	
不明	1	0.1	0.1	
計	741	100.0		

表 2-1-2. 「虫さされ」の種類

種類	件	%
アブ・ブヨ	26	27.4
ハチ	30	31.6
ダニ	15	15.8
毛虫	3	3.2
ムカデ	9	9.5
クラゲ	2	2.1
その他	10	10.5
不明	0	0.0
計	95	100.0

表 2-1-4. 程度別負傷発生件数・割合

程度	件	%
軽微(その場で手当てでできる軽いけが)	553	74.6
軽傷(医師による1か月未満の治療を要するけが)	161	21.7
重傷(医師による1か月以上の治療を要するけが)	23	3.1
致命傷(死亡・後遺症が残る重篤なけが)	0	0.0
不明	4	0.5
計	741	100.0

負傷の程度をみると（表 2-1-4）、「軽微（その場で手当てできる軽いけが）」（553 件）が最も多く、発生した負傷のおよそ 7 割半は軽微な負傷となっている。

負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-1-5）、「不注意（本人）」（298 件）が最も多く、次いで「不慣れ（本人）」（179 件）、「注意不足（指導者）」（141 件）となっている。各要因の区分でみると、本人に係る要因（710 件）が 53.8%と半数以上を占めており、次いで、環境に係る要因（240 件）が 18.2%、指導・引率者に係る要因（236 件）が 17.9%、装備に係る要因（62 件）が 4.7%となっていた。

表 2-1-5. 要因別負傷発生件数・割合 (複数回答)

要因		件	%	%
本人	失敗	97	13.1	53.8
	不注意	298	40.2	
	不慣れ	179	24.2	
	不適切な行動	37	5.0	
	寝不足	4	0.5	
	疲労	37	5.0	
	不安・心配・緊張	9	1.2	
	体力不足	16	2.2	
	人間関係(けんか、ふざけ等)	15	2.0	
	既往症	15	2.0	
	アレルギー	3	0.4	
	指導・引率者	指導不足	51	
注意不足		141	19.0	
経験不足		17	2.3	
人数不足		9	1.2	
連携不足		9	1.2	
準備不足		9	1.2	
装備	不適切な服装	22	3.0	4.7
	装備不備	20	2.7	
	装備不良(破損・劣化)	7	0.9	
	施設・設備の故障・不具合	13	1.8	
環境	荒天(強風、雷、吹雪等)	6	0.8	18.2
	気温	9	1.2	
	日差し	1	0.1	
	高度(標高)	0	0.0	
	水深	0	0.0	
	雪	11	1.5	
	落石・落木	4	0.5	
	不安定さ・滑りやすさ	95	12.8	
	虫・動物	99	13.4	
	植物	15	2.0	
	病原体(ウイルス等)	0	0.0	
その他	62	8.4	4.7	
不明	9	1.2	0.7	
回答者数		741		↑

※上記の数値は回答数(N=1319)を基に割合を算出

(2) 症状別にみた負傷の部位、程度、要因

症状ごとに負傷した部位をみると(表2-2-1)、打撲では「頭」(53件)や「膝」(18件)などの負傷が多く、きり傷では「手・指」(33件)や「顔」(12件)、ねんざでは「足首」(85件)や「手首」(14件)といった部位の負傷が多くなっている。

次に、症状ごとに負傷の程度をみると(表2-2-2)、ほとんどの症状では「軽微」が多くなっているが、骨折などでは「軽症」や「重傷」の割合が高くなっている。

表2-2-1. 症状別・部位別負傷発生件数 (件)

部位		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
頭部	頭	8	0	1	0	0	0	53	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	4	71
	顔	12	0	6	0	0	0	16	0	0	0	0	0	11	2	0	2	0	0	0	1	50
	眼	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	3	12
	首	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	4	1	0	0	1	10
上肢部	肩	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	3	9
	上腕	0	0	1	1	0	0	4	0	1	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	12
	肘	1	0	6	0	0	0	8	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	18
	前腕	0	1	4	10	0	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	7	2	0	0	0	29
	手首	6	0	0	4	0	0	4	0	14	0	0	8	0	0	0	1	0	0	0	1	38
手・指	33	17	15	54	0	0	15	12	3	0	1	4	0	0	0	19	0	0	0	0	7	180
体幹部	胸	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	腹	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	背中	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	8
	腰	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	10
下肢部	尻	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	大腿	1	0	0	1	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	1	18
	膝	6	0	19	1	0	0	18	0	4	4	0	0	0	0	0	3	0	0	0	6	61
	下腿	1	1	9	0	0	0	4	0	2	0	0	2	0	0	0	8	1	0	0	2	30
	足首	1	0	3	2	0	0	3	0	85	2	0	1	0	0	0	16	0	0	0	3	116
	足・指	11	6	4	2	0	0	11	1	4	0	0	1	0	0	0	10	0	0	0	10	60
全身	全身	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計		80	25	72	76	0	0	158	13	116	8	2	25	12	2	6	95	4	0	0	47	741

表2-2-2. 症状別・程度別負傷発生件数 (件)

程度	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
軽微	56	21	63	70	0	0	127	9	85	0	0	0	12	0	4	69	1	0	0	36	553
軽傷	23	4	9	5	0	0	30	4	26	6	2	9	0	2	2	25	3	0	0	11	161
重傷	0	0	0	0	0	0	1	0	4	2	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	23
致命傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
計	80	25	72	76	0	0	158	13	116	8	2	25	12	2	6	95	4	0	0	47	741

症状ごとに負傷の要因（複数回答）をみると（表 2-2-3）、打撲では「不注意（本人）」（83 件）や「不安定さ・滑りやすさ」（41 件）による負傷が多くなっており、次いで、きり傷やねんざでは「不注意（本人）」（きり傷 40 件、ねんざ 44 件）や「不慣れ（本人）」（きり傷 33 件、ねんざ 26 件）による負傷が多くなっている。

表 2-2-3. 症状別・要因別負傷発生件数

（複数回答：件）

要因		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他
本人	失敗	12	1	8	10	0	0	25	7	22	1	1	7	0	0	0	1	0	0	0	2
	不注意	40	12	40	42	0	0	83	2	44	2	0	12	0	0	3	6	0	0	0	12
	不慣れ	33	3	19	42	0	0	37	4	26	0	0	5	0	0	0	4	0	0	0	6
	不適切な行動	11	2	2	4	0	0	10	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	寝不足	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	疲労	0	0	2	0	0	0	9	0	16	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	6
	不安・心配・緊張	0	0	1	0	0	0	4	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	体力不足	0	0	3	0	0	0	5	1	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	人間関係	5	0	2	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	既往症	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	10
	アレルギー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
指導・引率者	指導不足	10	1	4	14	0	0	11	1	2	0	0	4	0	0	0	2	0	0	0	2
	注意不足	22	10	10	19	0	0	34	2	19	0	0	8	0	1	2	9	0	0	0	5
	経験不足	4	0	1	4	0	0	4	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	人数不足	2	0	1	2	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	連携不足	1	0	0	5	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	準備不足	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
装備	不適切な服装	2	0	1	3	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	10	1	0	0	1
	装備不備	2	2	4	7	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	1
	装備不良	1	1	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	施設・設備の故障・不具合	2	5	1	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
環境	荒天	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	気温	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
	日差し	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	高度(標高)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水深	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	雪	0	0	0	0	0	0	3	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	落石・落木	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不安定さ・滑りやすさ	7	0	11	0	0	0	41	2	21	2	1	7	0	1	0	0	0	0	0	2
	虫・動物	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	95	1	0	0	1
	植物	2	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
病原体(ウイルス等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	2	4	2	1	0	0	15	1	11	3	0	1	5	1	2	1	1	0	0	12	
不明	1	0	3	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
回答者数(N=741)	80	25	72	76	0	0	158	13	116	8	2	25	12	2	6	95	4	0	0	47	

(3) 状況別・症状別にみた負傷の発生件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた負傷の発生件数

負傷者の年齢期ごとに発生した負傷の症状をみたところ(表2-3-1)、小学生は「打撲」(80件)、「やけど」(45件)、「きり傷」(44件)、中学生は「ねんざ」(47件)、「打撲」(42件)、「虫さされ」(27件)による負傷が多くなっている。

男女で負傷の症状を比較すると、男性は「きり傷」(66件)、「さし傷」(19件)、「すり傷」(48件)、「打撲」(94件)、「突き指」(10件)などによる負傷が女性に比べて多くなっている。一方、女性は「やけど」(40件)や「ねんざ」(68件)などによる負傷が男性に比べて多くなっている。

表2-3-1. 年齢期・性別・症状別負傷発生件数 (件)

年齢期	性別	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
幼児	全体	3	3	3	0	0	0	5	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	19
	男	2	3	2	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	14
	女	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5
小学生	全体	44	11	39	45	0	0	80	9	34	0	0	16	9	1	3	40	3	0	0	22	356
	男	33	8	27	21	0	0	55	8	19	0	0	6	2	1	3	22	2	0	0	8	215
	女	11	3	12	24	0	0	25	1	15	0	0	10	7	0	0	18	1	0	0	14	141
中学生	全体	17	4	20	21	0	0	42	0	47	1	1	6	3	1	3	27	0	0	0	8	201
	男	16	3	13	11	0	0	24	0	17	1	1	6	3	1	1	12	0	0	0	5	114
	女	1	1	7	10	0	0	18	0	30	0	0	0	0	0	2	15	0	0	0	3	87
高校生	全体	7	2	4	4	0	0	9	2	18	0	0	1	0	0	0	9	0	0	0	7	63
	男	6	1	2	2	0	0	5	1	7	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	29
	女	1	1	2	2	0	0	4	1	11	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	6	34
大学生等	全体	4	2	3	2	0	0	15	0	9	6	0	1	0	0	0	5	1	0	0	6	54
	男	4	2	2	0	0	0	4	0	3	2	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	21
	女	0	0	1	2	0	0	11	0	6	4	0	1	0	0	0	2	0	0	0	6	33
社会人	全体	5	3	2	4	0	0	7	2	7	1	1	1	0	0	0	10	0	0	0	4	47
	男	5	2	2	2	0	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	2	23
	女	0	1	0	2	0	0	5	1	6	1	1	0	0	0	0	5	0	0	0	2	24
その他	全体	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
不明	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	80	25	72	76	0	0	158	13	116	8	2	25	12	2	6	95	4	0	0	47	741
	男	66	19	48	36	0	0	94	10	48	3	1	13	5	2	4	48	3	0	0	16	416
	女	14	6	24	40	0	0	64	3	68	5	1	12	7	0	2	47	1	0	0	31	325

② 月別・症状別にみた負傷の発生件数

月ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-2）、発生件数が多かった 6 月（119 件）は、「打撲」（24 件）や「虫さされ」（23 件）、「やけど」（17 件）による負傷が多くなっている。次いで多かった 5 月や 7 月をみると、5 月は「打撲」と「ねんざ」（ともに 21 件）、7 月は「打撲」（19 件）や「やけど」（14 件）が多くなっている。また、5 月から 7 月の負傷の発生件数は合わせて 305 件となっており、年間に起きた負傷の発生件数の約 4 割を占めていた。

表 2-3-2. 月別・症状別負傷発生件数

(件)

月		きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
春・夏	4月	7	5	4	5	0	0	14	2	12	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	7	62
	5月	6	4	12	5	0	0	21	0	21	0	0	2	5	0	2	8	0	0	0	7	93
	6月	15	2	12	17	0	0	24	0	11	0	0	3	3	1	1	23	1	0	0	6	119
	7月	13	2	3	14	0	0	19	4	7	0	0	6	3	0	0	18	1	0	0	3	93
	8月	10	3	7	6	0	0	7	0	9	0	0	3	0	0	0	26	0	0	0	6	77
	9月	6	3	5	7	0	0	14	0	11	1	1	3	0	0	0	8	1	0	0	3	63
秋・冬	10月	8	2	14	4	0	0	21	0	10	0	0	4	1	0	1	2	0	0	0	1	68
	11月	6	2	6	11	0	0	11	3	6	0	0	3	0	0	2	1	1	0	0	5	57
	12月	1	1	1	0	0	0	2	1	8	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	18
	1月	3	0	4	1	0	0	7	1	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	21
	2月	3	0	1	5	0	0	10	1	11	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	37
	3月	2	1	3	1	0	0	8	1	6	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	7	33
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		80	25	72	76	0	0	158	13	116	8	2	25	12	2	6	95	4	0	0	47	741

③ 時間別・症状別にみた負傷の発生件数

時間ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-3）、発生件数の多かった 15 時では「ねんざ」（18 件）や「打撲」（17 件）、次いで、11 時では「打撲」（27 件）や「虫さされ」（16 件）などによる負傷が多くなっている。そこで、活動時間帯ごとに発生件数の多かった症状をみると、午前（9～11 時）、午後（13～16 時）、夜（19～22 時）のいずれの活動時間帯も「打撲」（午前 41 件、午後 52 件、夜 38 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-3. 時間別・症状別負傷発生件数

(件)

時間	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
起床・朝食等	6時	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	7
	7時	2	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	8
	8時	5	1	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	19
活動(午前)	9時	3	0	0	1	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	3	1	0	0	1	14
	10時	7	2	9	9	0	12	2	8	2	0	2	0	0	1	15	0	0	0	2	71
	11時	5	4	7	12	0	27	1	15	4	1	1	1	0	0	16	1	0	0	4	99
昼食	12時	4	1	4	7	0	14	2	11	0	0	4	2	1	0	7	0	0	0	3	60
活動(午後)	13時	3	3	5	4	0	8	0	10	0	0	1	0	0	0	14	0	0	0	2	50
	14時	5	5	12	14	0	15	1	22	1	0	4	1	0	0	3	0	0	0	5	88
	15時	13	3	15	15	0	17	1	18	0	0	4	3	0	3	5	0	0	0	6	103
	16時	7	3	4	4	0	12	4	10	0	1	4	1	0	0	8	1	0	0	1	60
夕食・入浴等	17時	4	0	4	1	0	7	1	5	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	2	30
	18時	6	1	1	1	0	3	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	0	0	2	19
活動(夜)	19時	0	0	5	4	0	8	0	3	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	4	29
	20時	7	0	4	3	0	14	0	5	0	0	1	1	0	1	4	0	0	0	4	44
	21時	1	0	1	0	0	9	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	16
	22時	4	0	1	0	0	7	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3	19
就寝	23～5時	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		80	25	72	76	0	158	13	116	8	2	25	12	2	6	95	4	0	0	47	741

※上記(左)の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

④ 活動内容別・場所別・症状別にみた負傷の発生件数

活動内容ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-4）、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ねんざ」（31 件）や「打撲」（26 件）、「虫さされ」（9 件）による負傷が多くなっており、次いで、オリエンテーリング・ウォークラリーでは「ねんざ」と「虫さされ」（ともに 22 件）、「打撲」と「すり傷」（ともに 10 件）、自由時間では「打撲」（23 件）や「きり傷」（18 件）、「すり傷」と「虫さされ」（ともに 8 件）による負傷が多くなっている。

場所ごとに発生した負傷の症状をみたところ（表 2-3-5）、屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）では「ねんざ」（41 件）や「虫さされ」（34 件）、「打撲」（33 件）による負傷が多くなっており、次いで、体育館・プレイホール・講堂では「ねんざ」（29 件）や「打撲」（25 件）、「きり傷」（9 件）、グラウンド・広場・コート等では「打撲」と「虫さされ」（ともに 20 件）、「ねんざ」（19 件）、「すり傷」（16 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-4. 活動内容別・症状別負傷発生件数

(件)

活動	さ り 傷	さ し 傷	す り 傷	や け ど	日 焼 け	凍 傷	打 撲	突 き 指	ね ん ざ	靭 帯 損 傷 ・ 断 裂	脱 臼	骨 折	鼻 血	歯 の 破 折	眼 の け が	虫 さ さ れ	か ぶ れ	気 道 閉 塞 ・ 誤 嚥	溺 水	そ の 他	計
登山・ハイキング	1	1	6	0	0	0	12	0	14	0	0	2	2	1	0	13	1	0	0	2	55
オリエンテーリング・ウォークラリー	2	1	10	0	0	0	10	0	22	1	0	4	3	0	0	22	0	0	0	6	81
クロスカントリースキー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
サイクリング・マウンテンバイク	3	1	3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
アドベンチャープログラム・イニシエアティブゲーム	0	4	2	1	0	0	6	2	2	0	0	0	1	0	1	5	0	0	0	1	25
クライミング・ボルダリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	5	0	6	0	0	0	26	5	31	4	1	4	0	0	0	9	0	0	0	10	101
カッター・カヌー・ボート・ヨット	2	1	3	0	0	0	13	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	24
シュノーケリング・スキューバダイビング	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
海水浴・磯遊び・釣り	4	4	7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
沢登り・川遊び	1	0	2	0	0	0	5	1	0	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	14
スキー・スノーボード	0	0	0	0	0	0	1	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
クロスカントリースキー	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	1	0	0	0	0	0	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
野外炊事	15	1	1	31	0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1	58
キャンプ(テント設置等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	2	1	1	5	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	19
創作活動(クラブト等)	5	2	3	31	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	48
自然観察	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	1	9
研修・学習活動	2	1	1	2	0	0	6	1	2	0	0	3	0	0	0	4	0	0	0	5	27
奉仕活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自由時間	18	3	8	1	0	0	23	1	4	0	0	3	1	0	0	8	0	0	0	5	75
つどい(朝・夕)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	4
清掃	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	7
食事	0	0	0	2	0	0	6	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	3	15
入浴	6	0	3	0	0	0	6	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	2	20
就寝時間(起床時も含む)	5	0	0	0	0	0	10	0	2	0	0	0	1	0	1	3	0	0	0	2	24
移動中	2	2	9	0	0	0	7	0	17	0	0	3	0	0	0	1	1	0	0	1	43
入所前	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他	3	0	6	2	0	0	6	3	5	0	0	0	2	0	1	6	1	0	0	3	38
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	80	25	72	76	0	0	158	13	116	8	2	25	12	2	6	95	4	0	0	47	741

表 2-3-5. 場所別・症状別負傷発生件数

(件)

場所	さり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
生活エリア	18	3	2	0	0	0	31	1	4	0	0	3	2	0	1	9	0	0	0	7	81
宿泊室																					
通路・階段	2	2	5	0	0	0	7	0	13	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	1	34
食堂	0	0	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	9
浴室	6	0	2	0	0	0	6	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	2	19
活動エリア	7	3	2	27	0	0	3	2	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	51
研修室・オリエンテーション室																					
体育館・プレイホール・講堂	9	0	4	3	0	0	25	8	29	4	0	6	0	0	1	4	0	0	0	12	105
武道場	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	6
クライングホール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工作室・調理室等	4	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
野外炊事場	13	1	1	32	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	58
テントサイト	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	5
グラウンド・広場・コート等	4	4	16	4	0	0	20	1	19	0	0	4	2	0	1	20	0	0	0	5	100
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	6	7	19	0	0	0	33	1	41	2	1	8	4	1	0	34	1	0	0	8	166
ロープスコース※	0	2	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	1	12
海洋施設	4	3	11	0	0	0	14	0	1	0	0	0	0	0	0	5	1	0	0	2	41
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	5	0	1	2	0	0	5	0	3	2	0	1	2	0	0	6	0	0	0	3	30
その他	2	0	5	1	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	15
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	80	25	72	76	0	0	158	13	116	8	2	25	12	2	6	95	4	0	0	47	741

※アドベンチャープログラムで使用する活動場所

⑤ 天候別・症状別にみた負傷の発生件数

天候ごとに発生した負傷した症状をみると（表 2-3-6）、いずれの天候でも「打撲」（晴 93 件、曇 45 件、雨 18 件、雪 2 件）による負傷が多くなっている。

表 2-3-6. 天候別・症状別負傷発生件数 (件)

天候	きり傷	さし傷	すり傷	やけど	日焼け	凍傷	打撲	突き指	ねんざ	靭帯損傷・断裂	脱臼	骨折	鼻血	歯の破折	眼のけが	虫さされ	かぶれ	気道閉塞・誤嚥	溺水	その他	計
晴	48	18	51	41	0	0	93	6	72	4	1	17	8	2	4	63	2	0	0	29	459
曇	20	6	17	25	0	0	45	2	30	3	0	2	4	0	0	24	1	0	0	11	190
雨	10	1	3	10	0	0	18	5	9	0	1	6	0	0	2	8	1	0	0	7	81
雪	2	0	1	0	0	0	2	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	80	25	72	76	0	0	158	13	116	8	2	25	12	2	6	95	4	0	0	47	741

(4) 負傷した時の状況

① 負傷の多かった活動の事例（代表的な事例を抜粋して掲載）

ア. スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/体育館・プレイホール・講堂

症状	骨折(肘)	程度	重傷	傷病者	小学生・男
状況	試合中に相手選手と接触し、転倒。右肘が床にぶつかり骨折。				

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/グラウンド・広場・コート等

症状	骨折(上腕)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	アメリカンフットボールの練習中に他の選手と接触し、転倒して骨折した。				

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/グラウンド・広場・コート等

症状	骨折(足首)	程度	重傷	傷病者	高校生・女
状況	ラグビータックルの練習をしているとき、ボールキャリアの足首にタックルされた。				

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/体育館・プレイホール・講堂

症状	靭帯損傷・断裂(膝)	程度	重傷	傷病者	大学生等・女
状況	柔道の練習中、技をかけられて返そうとした際に左膝を負傷した。				

[活動] スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)/グラウンド・広場・コート等

症状	打撲(頭)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	プレー中に接触して後ろに転倒し、頭と首を強打した。				

イ. オリエンテーリング・ウォークラリー

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(前腕)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	オリエンテーリングで転倒し、左手をついた際に骨折。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(胸)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	オリエンテーリング中、坂道を下っていたところ、足がもつれて転倒し、胸部周辺を地面にうった。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	虫刺され(大腿)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	活動中、右大腿部内側をマダニに噛まれた。				

[活動] オリエンテーリング・ウォークラリー/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	打撲(上腕)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	地面がぬかるんでいるところを走って転倒し、右腕を打撲。				

ウ. 自由時間

[活動] 自由時間/宿泊室

症状	骨折(前腕)	程度	重傷	傷病者	小学生・女
状況	ロフトから降りる際、足が滑り転倒。着地の際に左手をついて骨折。				

[活動] 自由時間/体育館・プレイホール・講堂

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	小学生・女
状況	追いかけてっこをしていて、転んだ際に手をついて手首を骨折した。				

[活動] 自由時間/宿泊室

症状	きり傷(顔)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	部屋で2段ベッドの間を通ろうとしたら転倒し、あごに裂傷を負った。				

[活動] 自由時間/グラウンド・広場・コート等

症状	ねんざ(足首)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	坂を下りた際、岩に右足がぶつかってバランスを崩し、右足首をねんざ。				

[活動] 自由時間/宿泊室

症状	きり傷(手首)	程度	軽傷	傷病者	中学生・男
状況	ガラス部分をノックしたら思ったより力が強く入ってしまい、ガラスが割れてしまった。				

エ. 野外炊事

[活動] 野外炊事/野外炊飯場

症状	打撲(頭)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	食材を取りに行こうとして走ってつまずき転倒。その際、手のひらに2か所と右目からほほにかけての切り傷、右側頭部を打った。				

[活動] 野外炊事/野外炊飯場

症状	やけど(手・指)	程度	軽傷	傷病者	小学生・女
状況	ピザ作りをしている時にたまたまテーブルに手を置いていたところ、その手の上に別の児童がかまどから出したピザのトレイを誤って置いてしまい、やけどした。				

[活動] 野外炊事/野外炊飯場

症状	きり傷(大腿)	程度	軽傷	傷病者	社会人・男
状況	薪割りがうまくいかず、鉈が左腿にあたっしまい、10cm以内の切り傷を負う。				

[活動] 野外炊事/野外炊飯場

症状	やけど(上腕)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	一輪車に乗せて炭を捨てようとしたら一輪車が前に倒れてしまい、急いで起こそうとした時に熱くなった一輪車のふちが腕にあたっしまいやけどした。				

オ. 登山・ハイキング

[活動] 登山・ハイキング/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	小学生・女
状況	下山途中に足をすべらせ、左手をついて骨折				

[活動] 登山・ハイキング/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	ねんざ(足首)	程度	重傷	傷病者	社会人・女
状況	下りの場面で木の階段をすべってふみはずして右足首をひねった。				

[活動] 登山・ハイキング/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	歯の破折(顔)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	2メートルほどの崖から落下し、前歯を折った。				

[活動] 登山・ハイキング/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	かぶれ(下腿)	程度	軽傷	傷病者	小学生・男
状況	半ズボンで草むらの中を走っていたため、両膝からすねにかけてかぶれてしまった。				

[活動] 登山・ハイキング/屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)

症状	打撲(頭)	程度	軽微	傷病者	小学生・男
状況	下山中、階段の木材が抜けているところで右足をすべらせ、右側に転倒し、右側頭部を打って斜面を滑り落ちてしまった。				

② その他の活動で重傷だった事例

[活動] 移動中/宿泊室

症状	骨折(足・指)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	宿泊棟の階段をかけあがろうとつまずき、バランスを崩して、階段の角に左足をぶつけた。				

[活動] 入浴/浴室

症状	骨折(手首)	程度	重傷	傷病者	中学生・男
状況	脱衣所でズボンを脱ぐ時に、足を滑らせて後方へ転倒。その際、床に手をつき、左手首を骨折した。				

[活動] スキー・スノーボード/敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)

症状	靭帯損傷・断裂(膝)	程度	重傷	傷病者	大学生等・女
状況	スキーをしていて転び、膝をひねった。				

3. 疾病の概況

(1) 疾病の状態

疾病の症状をみると(表3-1-1)、「発熱」(430件)が最も多く、次いで「頭痛」(152件)、「嘔吐」(114件)となっている。なお、発熱の理由を尋ねたところ、熱中症による発熱は65件であった。

疾病が発症した要因(複数回答)をみると(表3-1-2)、「疲労(本人)」(540件)が最も多く、次いで「不安・心配・緊張(本人)」(188件)、「気温(環境)」(185件)となっており、本人に係る要因(1172件)がおおよそ6割強を占めていた。

疾病の発症時期をみると(表3-1-3)、「急に」(678件)が最も多く、次いで「今朝から」(218件)、「前日から」(46件)となっている。

表3-1-1. 症状別疾病発生件数・割合

症状	件	%
発熱	430	40.4
咳・喉の痛み	35	3.3
くしゃみ・鼻水	4	0.4
喘息	2	0.2
過呼吸	11	1.0
頭痛	152	14.3
めまい	15	1.4
吐き気	86	8.1
嘔吐	114	10.7
腹痛	75	7.0
下痢	1	0.1
生理痛	16	1.5
歯痛	0	0.0
脱水	9	0.8
けいれん	11	1.0
倦怠感(だるさ)	46	4.3
発疹	16	1.5
低体温	0	0.0
その他	42	3.9
計	1065	100.0

<その他>

乗り物酔い、寒気、低血糖、貧血 等

表3-1-3. 発症時期別疾病発生件数・割合

時期	件	%
数日前から	17	1.6
前日から	46	4.3
今朝から	218	20.5
急に	678	63.7
その他	93	8.7
不明	13	1.2
計	1065	100.0

<その他>

入所前、バス乗車中、食後、等

表3-1-2. 要因別疾病発生件数・割合

(複数回答)

要因	件	%	%
本人			61.5
失敗	6	0.6	
不注意	12	1.1	
不慣れ	118	11.1	
不適切な行動	8	0.8	
寝不足	146	13.7	
疲労	540	50.7	
不安・心配・緊張	188	17.7	
体力不足	74	6.9	
人間関係(けんか、ふざけ等)	4	0.4	
既往症	46	4.3	
アレルギー	30	2.8	
指導・引率者			3.4
指導不足	12	1.1	
注意不足	32	3.0	
経験不足	4	0.4	
人数不足	4	0.4	
連携不足	6	0.6	
準備不足	7	0.7	
装備			1.2
不適切な服装	20	1.9	
装備不備	1	0.1	
装備不良(破損・劣化)	0	0.0	
施設・設備の故障・不具合	1	0.1	
環境			21.9
荒天(強風、雷、吹雪等)	9	0.8	
気温	185	17.4	
日差し	90	8.5	
高度(標高)	10	0.9	
雪	5	0.5	
落石・落木	1	0.1	
不安定さ・滑りやすさ	0	0.0	
虫・動物	2	0.2	
植物	2	0.2	
病原体(ウィルス等)	114	10.7	
その他	144	13.5	7.6
不明	86	8.1	4.5
回答者数	1065		↑

※上記の数値は回答数(N=1907)を基に割合を算出

(2) 症状別にみた疾病の要因、発症時期、処置・静養後の対応

症状ごとに疾病の発症要因（複数回答）をみると（表3-2-1）、発熱では「疲労（本人）」（213件）、「病原体（ウイルス等）」（104件）、「気温（環境）」（70件）が多くなっており、頭痛では「疲労（本人）」（98件）、「気温（環境）」（47件）、「不安・心配・緊張（本人）」及び「日差し（環境）」（ともに26件）、嘔吐では「疲労（本人）」（53件）、「不安・心配・緊張（本人）」（28件）、「寝不足（本人）」（25件）による発症が多くなっている。

表3-2-1. 要因別・症状別疾病発生件数

(複数回答:件)

要因		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	
本人	失敗	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	不注意	2	1	0	0	0	0	0	2	3	1	0	0	0	0	0	2	0	0	1	
	不慣れ	29	2	0	1	3	19	2	12	12	17	0	1	0	4	1	6	1	0	8	
	不適切な行動	0	0	0	0	1	1	0	0	4	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	寝不足	38	9	1	0	1	21	4	24	25	7	0	1	0	3	0	10	1	0	1	
	疲労	213	18	2	0	4	98	9	48	53	35	0	3	0	4	2	30	2	0	19	
	不安・心配・緊張	48	5	0	0	6	26	5	18	28	26	0	2	0	2	2	9	1	0	10	
	体力不足	21	0	0	0	2	14	2	6	11	2	0	0	0	1	1	13	0	0	1	
	人間関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	既往症	2	3	0	1	2	10	1	4	4	2	0	1	0	0	0	6	1	3	0	6
	アレルギー	6	4	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	9	0	5	
指導・引率者	指導不足	0	0	0	0	0	3	0	1	4	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	
	注意不足	7	1	0	0	1	4	0	1	11	5	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
	経験不足	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	人数不足	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
	連携不足	2	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	準備不足	2	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
装備	不適切な服装	8	1	0	0	0	6	0	0	0	2	0	0	0	0	1	2	0	0	0	
	装備不備	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	装備不良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	施設・設備の故障・不具合	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
環境	荒天	1	1	0	0	0	2	0	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	気温	70	5	0	0	2	47	2	13	10	8	0	1	0	4	2	12	0	0	9	
	日差し	36	2	0	0	0	26	0	5	5	2	0	1	0	4	0	6	0	0	3	
	高度(標高)	1	0	0	0	1	6	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
	雪	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	落石・落木	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	不安定さ・滑りやすさ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	虫・動物	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	植物	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	病原体(ウイルス等)	104	3	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
その他	34	6	1	1	1	17	3	15	30	9	0	7	0	0	4	2	3	0	11		
不明	48	3	0	0	1	5	0	1	12	6	1	3	0	1	0	3	1	0	1		
回答者数(N=1065)	430	35	4	2	11	152	15	86	114	75	1	16	0	9	11	46	16	0	42		

症状ごとに疾病の発症時期をみると（表 3-2-2）、発熱、頭痛、嘔吐では、「急に」（発熱 299 件、頭痛 97 件、嘔吐 74 件）が最も多く、次いで「今朝から」（発熱 79 件、頭痛 24 件、嘔吐 26 件）となっている。

表 3-2-2. 発症時期別・症状別疾病発生件数

(件)

時期	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
数日前から	7	1	0	0	1	1	0	1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	2	17
前日から	13	8	0	0	0	6	2	2	2	8	0	1	0	1	0	0	1	0	2	46
今朝から	79	8	3	0	1	24	5	25	26	22	1	6	0	3	0	9	2	0	4	218
急に	299	14	1	2	9	97	5	47	74	36	0	9	0	4	8	31	13	0	29	678
その他	23	4	0	0	0	21	3	11	12	7	0	0	0	1	2	4	0	0	5	93
不明	9	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	13
計	430	35	4	2	11	152	15	86	114	75	1	16	0	9	11	46	16	0	42	1065

症状ごとに処置・静養後の対応をみると（表 3-2-3）、発熱では「活動継続」（88 件）より「帰宅」（342 件）のほうが多くなっており、発熱の症状が出た者の 8 割弱が帰宅している状況であった。

表 3-2-3. 処置・静養後の対応別・症状別疾病発生件数

(件)

処置・静養後	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
活動継続	88	16	1	1	9	113	11	59	76	48	1	13	0	7	5	33	10	0	34	525
帰宅	342	19	3	1	2	38	4	27	38	27	0	3	0	2	6	13	6	0	8	539
不明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	430	35	4	2	11	152	15	86	114	75	1	16	0	9	11	46	16	0	42	1065

(3) 状況別・症状別にみた疾病の発生件数

① 年齢期別・性別・症状別にみた疾病の発生件数

年齢期ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-1）、小学生、中学生、高校生ともに「発熱」（小学生 216 件、中学生 117 件、高校生 53 件）が多く、小学生では「嘔吐」（87 件）や「頭痛」（72 件）も多くなっている。

男女で疾病の症状を比較すると、男性は「発熱」（233 件）や「嘔吐」（72 件）などの疾病が女性に比べて多くなっており、女性は「頭痛」（82 件）や「腹痛」（43 件）などの症状が男性に比べて多くなっている。

表 3-3-1. 年齢期別・性別・症状別疾病発生件数

(件)

年齢期	性別	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみやみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感（だるさ）	発疹	低体温	その他	計
幼児	全体	14	0	0	0	0	0	0	1	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	26
	男	9	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	女	5	0	0	0	0	0	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	12
小学生	全体	216	13	1	1	5	72	4	50	87	34	0	3	0	2	2	21	4	0	17	532
	男	115	9	1	0	2	34	0	30	59	17	0	0	0	1	2	10	0	0	6	286
	女	101	4	0	1	3	38	4	20	28	17	0	3	0	1	0	11	4	0	11	246
中学生	全体	117	10	1	0	3	46	3	15	12	23	0	7	0	5	4	16	5	0	10	277
	男	64	2	0	0	1	26	1	6	6	9	0	0	0	3	1	11	1	0	6	137
	女	53	8	1	0	2	20	2	9	6	14	0	7	0	2	3	5	4	0	4	140
高校生	全体	53	6	1	0	1	14	3	7	2	5	0	3	0	1	1	6	3	0	6	112
	男	29	3	1	0	0	6	1	2	1	0	0	0	0	1	1	5	2	0	3	55
	女	24	3	0	0	1	8	2	5	1	5	0	3	0	0	0	1	1	0	3	57
大学生等	全体	23	1	1	0	1	12	3	9	1	4	0	2	0	0	4	3	4	0	4	72
	男	9	1	0	0	0	2	2	5	1	2	0	0	0	0	4	0	3	0	0	29
	女	14	0	1	0	1	10	1	4	0	2	0	2	0	0	0	3	1	0	4	43
社会人	全体	7	5	0	1	1	8	2	4	3	8	0	1	0	1	0	0	0	0	5	46
	男	7	0	0	1	0	2	1	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	18
	女	0	5	0	0	1	6	1	3	1	5	0	1	0	1	0	0	0	0	4	28
その他	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	全体	430	35	4	2	11	152	15	86	114	75	1	16	0	9	11	46	16	0	42	1065
	男	233	15	2	1	3	70	5	45	72	32	0	0	0	5	8	26	6	0	16	539
	女	197	20	2	1	8	82	10	41	42	43	1	16	0	4	3	20	10	0	26	526

② 月別・症状別にみた疾病の発生件数

月ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-2）、多くの月で「発熱」の発生件数が多くなっているが、発生件数が多い6月や7月をみると、6月は「頭痛」（38件）、7月は「嘔吐」（33件）なども多くなっている。

表 3-3-2. 月別・症状別疾病発生件数

(件)

月	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計	
春・夏	4月	21	2	0	0	1	11	1	6	4	4	0	1	0	0	2	1	0	2	56	
	5月	33	2	3	0	1	26	2	8	7	12	0	2	0	0	1	6	3	0	5	111
	6月	71	1	0	1	1	38	1	23	20	11	0	4	0	0	3	12	4	0	9	199
	7月	80	3	0	0	2	21	4	17	33	11	1	4	0	5	2	7	0	0	8	198
	8月	68	12	1	0	2	13	3	5	8	11	0	2	0	2	1	7	1	0	4	140
	9月	45	7	0	0	2	16	0	2	13	9	0	1	0	2	0	4	2	0	4	107
秋・冬	10月	42	2	0	0	0	12	1	6	14	9	0	0	0	0	2	2	1	0	1	92
	11月	14	0	0	0	0	6	1	8	4	3	0	1	0	0	2	1	0	5	45	
	12月	14	0	0	0	0	1	0	4	4	0	0	0	0	0	0	1	0	1	25	
	1月	9	2	0	1	0	0	0	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	19
	2月	21	0	0	0	1	1	2	1	3	1	0	0	0	0	1	3	1	0	0	35
	3月	12	4	0	0	1	7	0	5	2	2	0	1	0	0	1	1	1	0	2	38
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	430	35	4	2	11	152	15	86	114	75	1	16	0	9	11	46	16	0	42	1065	

③ 時間別・症状別にみた疾病の発生件数

時間ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-3）、すべての時間で「発熱」が多くなっている。次に多い症状をみると、10時から17時までは主に「頭痛」が多くなっており、8時や9時、18時以降は主に「嘔吐」が多い状況となっている。

表 3-3-3. 時間別・症状別疾病発生件数

(件)

時間		発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計	
起床・朝食等	6時	26	1	0	0	0	1	1	2	2	6	0	0	0	1	0	0	1	0	1	42	
	7時	35	8	0	0	1	4	1	15	7	4	0	0	0	0	0	3	0	0	2	80	
	8時	27	5	0	0	0	11	3	10	19	5	0	0	0	1	0	3	0	0	0	84	
活動(午前)	9時	17	2	1	0	0	13	1	7	14	8	0	1	0	0	0	0	0	0	4	68	
	10時	18	1	1	0	2	15	2	1	6	8	0	5	0	1	0	6	2	0	5	73	
	11時	20	1	0	0	1	19	2	7	3	5	0	2	0	1	2	5	1	0	2	71	
昼食	12時	21	4	0	0	0	17	1	7	5	7	0	2	0	1	1	7	2	0	3	78	
活動(午後)	13時	21	1	0	0	0	9	0	2	4	3	0	2	0	3	0	4	0	0	3	52	
	14時	20	2	1	0	1	13	0	4	3	3	0	2	0	0	1	7	1	0	4	62	
	15時	25	0	0	0	2	15	3	4	6	5	0	0	0	0	1	4	2	0	2	69	
	16時	27	2	0	0	0	5	0	8	4	4	1	1	0	1	0	1	1	0	5	60	
夕食・入浴等	17時	27	0	0	0	0	7	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	
	18時	29	2	1	0	1	7	1	3	13	3	0	0	0	0	0	1	1	0	1	63	
活動(夜)	19時	25	0	0	0	1	6	0	3	8	4	0	0	0	0	0	2	1	0	2	52	
	20時	27	1	0	1	0	3	0	4	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	45	
	21時	26	2	0	0	0	5	0	4	7	4	0	0	0	0	3	2	2	0	2	57	
	22時	26	0	0	1	1	2	0	0	2	3	0	0	0	0	2	0	1	0	2	40	
就寝	23～5時	13	3	0	0	1	0	0	2	5	2	0	1	0	0	0	1	1	0	1	30	
不明		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		430	35	4	2	11	152	15	86	114	75	1	16	0	9	11	46	16	0	42	1065	

④ 活動内容別、場所別・症状別にみた疾病の発生件数

活動内容ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-4）、就寝時間（起床時間も含む）では「発熱」（94件）や「嘔吐」（16件）、「腹痛」及び「咳・喉の痛み」（ともに11件）、自由時間では「発熱」（85件）、「頭痛」及び「吐き気」（ともに16件）、「嘔吐」（13件）といった症状が多くなっている。また、研修・学習活動では「発熱」（50件）や「頭痛」（27件）、「腹痛」（14件）といった症状が多くなっている。

場所ごとに発症した疾病の症状をみると（表 3-3-5）、宿泊室では「発熱」（179件）や「嘔吐」（29件）、「腹痛」（26件）の症状が多くなっている。次いで、屋外運動コース（登山、OL、サイクリング等）では「発熱」（41件）や「頭痛」（33件）、「倦怠感（だるさ）」（16件）、体育館・プレイルーム・講堂では「発熱」（48件）や「頭痛」（25件）、「吐き気」（14件）などの症状が多くなっている。

表 3-3-4. 活動内容別症状別疾病発生件数

(件)

活動場所	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	菌痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
登山・ハイキング	13	0	0	0	1	5	1	0	3	3	0	2	0	2	0	2	1	0	2	35
オリエンテーリング・ウォークラリー	24	2	0	0	0	31	1	6	8	6	0	1	0	1	0	14	1	0	6	101
クロスカントリー	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
サイクリング・マウンテンバイク	4	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
アドベンチャープログラム・イニシアチブゲーム	6	0	0	0	0	11	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	23
クライミング・ボルダリング	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
スポーツ活動(野球、サッカー、テニス等)	23	3	0	0	0	12	1	7	6	2	1	1	0	2	2	6	1	0	3	70
水辺	8	0	0	0	0	7	0	4	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	21
シュノーケリング・スキューバダイビング	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
海水浴・磯遊び・釣り	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
沢登り・川遊び	4	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
雪上	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
スキー・スノーボード	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
クロスカントリースキー	4	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
雪上活動(雪遊び、スノーシュー等)	13	0	0	0	1	2	1	0	2	4	0	1	0	0	1	2	1	0	1	29
野外炊事	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
キャンプ(テント設置等)	14	0	0	1	0	4	0	3	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	27
キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	8	1	1	0	0	2	0	2	3	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	25
創作活動(クラフト等)	4	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7
自然観察	50	11	2	0	1	27	4	7	5	14	0	3	0	1	2	7	1	0	7	142
研修・学習活動	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
奉仕活動	85	3	1	1	0	16	0	16	13	12	0	0	0	0	2	3	4	0	4	160
自由時間	2	0	0	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
つどい(朝・夕)	7	1	0	0	0	3	2	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
清掃	34	2	0	0	1	9	1	6	38	6	0	0	0	2	0	5	4	0	1	109
食事	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4
入浴	94	11	0	0	1	6	1	8	16	11	0	1	0	1	2	3	2	0	3	160
就寝時間(起床時も含む)	7	0	0	0	0	2	0	11	8	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	35
移動中	1	0	0	0	0	3	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
入所前	15	1	0	0	2	7	1	4	2	2	0	1	0	0	0	2	0	0	2	39
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	430	35	4	2	11	152	15	86	114	75	1	16	0	9	11	46	16	0	42	1065
計																				

表 3-3-5. 場所別・症状別疾病発生件数・割合

(件)

場所	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
生活	179	16	1	1	1	24	3	24	29	26	0	1	0	1	5	7	6	0	7	331
宿泊室																				
通路・階段	3	0	0	0	0	0	0	3	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	12
エリ	29	2	0	0	1	9	1	6	36	5	0	0	0	0	0	4	3	0	1	97
ア	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
研修室・オリエンテーション室	36	9	3	0	2	19	1	6	6	10	0	4	0	1	0	4	1	0	4	106
体育館・ブレイホール・講堂	48	3	0	1	1	25	4	14	8	9	1	3	0	0	1	7	1	0	5	131
武道場	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
クワイミングウオール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
工作室・調理室等	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
野外炊事場	12	0	0	0	1	2	1	0	2	4	0	1	0	0	1	2	1	0	1	28
テントサイト	9	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
グラウンド・広場・コート等	32	2	0	0	0	18	0	7	5	5	0	2	0	3	2	5	0	0	6	87
屋外運動コース(登山、OL、サイクリング等)	41	0	0	0	4	33	2	6	10	9	0	4	0	2	1	16	2	0	6	136
ロープスコース※	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
海洋施設	4	0	0	0	0	6	0	5	1	2	0	1	0	2	0	0	2	0	1	24
敷地外の活動場所(バス等の移動も含む)	24	2	0	0	0	10	1	12	11	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	67
その他	8	0	0	0	0	1	1	2	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	20
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	430	35	4	2	11	152	15	86	114	75	1	16	0	9	11	46	16	0	42	1065

※アドバンチャープログラムで使用する活動場所

⑤ 天候別・症状別にみた疾病の発生件数

天候ごとに発症した疾病の症状をみたところ（表 3-3-6）、いずれの天候も「発熱」（晴 271 件、曇 109 件、雨 42 件、雪 7 件）が多くなっている。

表 3-3-6. 天候別症状別疾病発生件数

(件)

天候	発熱	咳・喉の痛み	くしゃみ・鼻水	喘息	過呼吸	頭痛	めまい	吐き気	嘔吐	腹痛	下痢	生理痛	歯痛	脱水	けいれん	倦怠感(だるさ)	発疹	低体温	その他	計
晴	271	19	2	1	4	98	6	54	65	52	1	9	0	6	8	24	12	0	25	657
曇	109	11	2	1	5	46	5	24	36	18	0	2	0	3	3	15	3	0	10	293
雨	42	5	0	0	2	8	4	6	13	5	0	5	0	0	0	6	1	0	7	104
雪	7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	10
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	430	35	4	2	11	152	15	86	114	75	1	16	0	9	11	46	16	0	42	1065

4. 熱中症による発熱の発生状況

(1) 熱中症の分析について

近年、熱中症による救急搬送が全国的に増加傾向にあるなか、体験活動においても熱中症は注意しなければならない傷病の一つとなっている。そこで、施設における熱中症の発生状況を把握するため、令和2年度に傷病記録の項目を一部改定し、熱中症による発熱（以下、「熱中症（発熱）」という。）の発生件数を調査している。

令和4年度の熱中症（発熱）の発生件数は65件となり、前年度（17件）に比べ大幅な増加となった。これは新型コロナウイルスの流行で活動を控えていた団体の利用が戻りつつある状況が影響していると推察され、今後、利用者の増加とともに熱中症の発生も増加することが懸念されている。

本報告書では、熱中症の予防・対策の検討に資する基礎資料を得るため、2020～2022年の3か年で発生した熱中症（発熱）のデータ（96件）を集約し、活動の環境（屋外活動59件・屋内活動37件）ごとに発生した時期や時間、天候、活動内容、要因、病院の受診、処置・静養後の対応について分析し、熱中症の発生状況やその要因について検証することとした。

なお、本調査では、熱中症でよく見られる症状の一つとして体温上昇（発熱）に着目し、熱中症の発生状況を把握している。しかし、熱中症は、発熱に限らず、気温や日差しに起因した頭痛、めまい、吐き気、倦怠感（だるさ）等の症状も該当すると思われるが、本調査ではそれらの数は含まれていない。また、傷病記録は、保健室利用など職員が対応した傷病、あるいは病院を受診した傷病に限ったものであるため、利用団体で対応した熱中症については含まれていない。そのため、施設で発生した熱中症の実際の件数は、本調査で分析した数よりも多い可能性があることに留意する必要がある。

(2) 年齢期別・性別にみた熱中症（発熱）の発生状況

傷病者の年齢期や性別ごとに熱中症（発熱）の発生件数をみたところ（表4-2-1）、男女ともに「小学生」（男25件、女27件）が最も多く、熱中症（発熱）の発生件数のおよそ5割半を占めていた。

各年齢期で熱中症（発熱）が発生した割合を男女で比較したところ、「小学生」や「中学生」では大きな差がみられなかったものの、「高校生」では女性（13.7%）のほうが高くなっていた。

表4-2-1. 年齢期別・性別熱中症（発熱）発生件数

年齢期	男		女		計	
	件	%	件	%	件	%
幼児	1	2.2	0	0.0	1	1.0
小学生	25	55.6	27	52.9	52	54.2
中学生	15	33.3	15	29.4	30	31.3
高校生	1	2.2	7	13.7	8	8.3
大学生等	1	2.2	2	3.9	3	3.1
社会人	2	4.4	0	0.0	2	2.1
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	45	100.0	51	100.0	96	100.0

(3) 状況別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生状況

① 月別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合

月ごとに熱中症（発熱）の発生件数をみたところ（表 4-3-1）、「6月」（25件）が最も多く、次いで「7月」（23件）、「9月」（16件）、「8月」（15件）となっており、施設で発生した熱中症（発熱）の8割強は6月～9月に起きていることが分かった。

環境ごとに熱中症（発熱）が発生した月の割合をみると、屋外活動では「6月」（33.9%）や「7月」（32.2%）、屋内活動では「9月」（35.1%）や「8月」（16.2%）に熱中症（発熱）の発生が高くなる傾向がみられた。そこで、発生件数を比較したところ、「9月」（13件）や「5月」（5件）など、月によっては屋内活動のほうが熱中症（発熱）の発生が多くなることが分かった。

表 4-3-1. 月別・環境別熱中症（発熱）発生件数

月	屋外		屋内		計		
	件	%	件	%	件	%	
春・夏	4月	1	1.7	3	8.1	4	4.2
	5月	2	3.4	5	13.5	7	7.3
	6月	20	33.9	5	13.5	25	26.0
	7月	19	32.2	4	10.8	23	24.0
	8月	9	15.3	6	16.2	15	15.6
	9月	3	5.1	13	35.1	16	16.7
秋・冬	10月	3	5.1	1	2.7	4	4.2
	11月	2	3.4	0	0.0	2	2.1
	12月	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	1月	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2月	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3月	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
計	59	100.0	37	100.0	96	100.0	

② 天候別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合

天候ごとに熱中症（発熱）の発生件数をみたところ（表 4-3-2）、最も多かったのは「晴」（79件）であったが、施設で発生した熱中症（発熱）の2割弱は「曇」（10件）や「雨」（7件）の時に起きていることが分かった。

環境ごとに熱中症（発熱）が発生した天候の割合をみると、屋外活動・屋内活動ともに「晴」（屋外活動 88.1%、屋内活動 73.0%）が高くなっていたが、屋内活動で発生した熱中症（発熱）の3割弱は「雨」（16.2%）や「曇」（10.8%）の時に起きていることが分かった。

表 4-3-2. 天候別・環境別熱中症（発熱）発生件数

天候	屋外		屋内		計	
	件	%	件	%	件	%
晴	52	88.1	27	73.0	79	82.3
曇	6	10.2	4	10.8	10	10.4
雨	1	1.7	6	16.2	7	7.3
雪	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	59	100.0	37	100.0	96	100.0

③ 時間別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合

時間ごとに熱中症（発熱）の発生件数をみたところ（表 4-3-3）、「15 時」（17 件）が最も多く、次いで「21 時」（10 件）、「11 時」（9 件）となっていた。

環境ごとに熱中症（発熱）が発生した時間の割合をみると、屋外活動における熱中症（発熱）の発生は 10 時～16 時の時間帯で多くなっており、特に「15 時」（22.0%）や「11 時」（15.2%）など活動の後半に当たる時間で発生する割合が高くなることが分かった。一方、屋内活動では 19 時～22 時の夜の活動の時間帯で熱中症（発熱）の発生が多くなっており、「21 時」（21.6%）が最も高くなっていた。

表 4-3-3. 時間別・環境別熱中症（発熱）発生件数

時間		屋外		屋内		計	
		件	%	件	%	件	%
起床・朝食等	6時	0	0.0	1	2.7	1	1.0
	7時	0	0.0	1	2.7	1	1.0
	8時	0	0.0	2	5.4	2	2.1
活動（午前）	9時	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	10時	6	10.2	0	0.0	6	6.3
	11時	9	15.3	0	0.0	9	9.4
昼食	12時	4	6.8	1	2.7	5	5.2
活動（午後）	13時	7	11.9	1	2.7	8	8.3
	14時	7	11.9	1	2.7	8	8.3
	15時	13	22.0	4	10.8	17	17.7
	16時	4	6.8	1	2.7	5	5.2
夕食・入浴等	17時	2	3.4	2	5.4	4	4.2
	18時	2	3.4	2	5.4	4	4.2
活動（夜）	19時	1	1.7	4	10.8	5	5.2
	20時	1	1.7	5	13.5	6	6.3
	21時	2	3.4	8	21.6	10	10.4
	22時	1	1.7	2	5.4	3	3.1
就寝	23～5時	0	0.0	2	5.4	2	2.1
不明		0	0.0	0	0.0	0	0.0
計		59	100.0	37	100.0	96	100.0

※上記（左）の時間帯は施設の標準的な生活時間帯を示している。

④ 活動内容別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合

活動内容ごとに熱中症（発熱）の発生件数をみたところ（表 4-3-4）、「オリエンテーリング・ウォークラリー」（15 件）が最も多く、次いで「登山・ハイキング」（12 件）、「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」（10 件）、「自由時間」（10 件）となっていた。

環境ごとに熱中症（発熱）が発生した活動内容の割合をみると、屋外活動では「オリエンテーリング・ウォークラリー」（25.4%）や「登山・ハイキング」（20.3%）が高くなっており、屋外活動で起きた熱中症（発熱）の半数近くを占めていることが分かった。一方、屋内活動では「自由時間」（24.3%）が最も高かったものの、次いで「就寝時間（起床時も含む）」（21.6%）が高くなっていったことから、活動だけでなく、就寝中も熱中症（発熱）が起きていることが分かった。

表 4-3-4. 活動内容別・環境別熱中症（発熱）発生件数

活動	屋外		屋内		計		
	件	%	件	%	件	%	
陸上活動	登山・ハイキング	12	20.3	0	0.0	12	12.5
	オリエンテーリング・ウォークラリー	15	25.4	0	0.0	15	15.6
	クロスカントリー	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	サイクリング・マウンテンバイク	4	6.8	0	0.0	4	4.2
	アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	1	1.7	1	2.7	2	2.1
	クライミング・ボルダリング	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）	5	8.5	5	13.5	10	10.4
水辺活動	カッター・カヌー・ボート・ヨット	9	15.3	0	0.0	9	9.4
	シュノーケリング・スキndaダイビング	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	海水浴・磯遊び・釣り	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	沢登り・川遊び	1	1.7	0	0.0	1	1.0
雪上活動	スキー・スノーボード	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	クロスカントリースキー	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	雪上活動（雪遊び、スノーシュー等）	0	0.0	0	0.0	0	0.0
野外生活	野外炊事	4	6.8	0	0.0	4	4.2
	キャンプ（テント設営等）	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	キャンプファイヤー・キャンドルセレモニー	1	1.7	3	8.1	4	4.2
	創作活動（クラフト等）	0	0.0	1	2.7	1	1.0
	自然観察	1	1.7	0	0.0	1	1.0
研修	研修・学習活動	0	0.0	6	16.2	6	6.3
	奉仕活動	0	0.0	0	0.0	0	0.0
生活	自由時間	1	1.7	9	24.3	10	10.4
	つどい（朝・夕）	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	清掃	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	食事	1	1.7	4	10.8	5	5.2
	入浴	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	就寝時間（起床時も含む）	1	1.7	8	21.6	9	9.4
	移動中	2	3.4	0	0.0	2	2.1
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	入所前	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	1	1.7	0	0.0	1	1.0
計	59	100.0	37	100.0	96	100.0	

⑤ 要因別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合

熱中症（発熱）が発生した要因（複数回答）をみたところ（表 4-3-5）、「気温（環境）」（53 件）が最も多く、次いで「疲労（本人）」（41 件）、「日差し（環境）」（38 件）となっていた。

環境ごとに熱中症（発熱）が発生した要因の割合をみると、屋外活動では「気温（環境）」（47.5%）や「日差し（環境）」（44.1%）といった環境に係る要因だけでなく、「疲労（本人）」（42.4%）や「体力不足（本人）」（20.3%）、「不慣れ（本人）」（20.3%）といった本人に係る要因も高くなっていることが分かった。一方、屋内活動では、発生した熱中症（発熱）の7割弱で「気温」（67.6%）が要因として挙げられており、「疲労（本人）」（43.2%）や「日差し（環境）」（32.4%）に比べて高い割合になっていた。

表 4-3-5. 要因別・環境別熱中症（発熱）発生件数

（複数回答）

要因	屋外		屋内		計		
	件	%	件	%	件	%	
本人	失敗	0	0.0	0	0.0	0	0
	不注意	0	0.0	0	0.0	0	0
	不慣れ	12	20.3	3	8.1	15	16.9
	不適切な行動	0	0.0	0	0.0	0	0
	寝不足	4	6.8	2	5.4	6	6.7
	疲労	25	42.4	16	43.2	41	46.1
	不安・心配・緊張	9	15.3	3	8.1	12	13.5
	体力不足	12	20.3	5	13.5	17	19.1
	人間関係(けんか、ふざけ等)	0	0.0	0	0.0	0	0
	既往症	0	0.0	0	0.0	0	0
	アレルギー	1	1.7	0	0.0	1	1.1
	指導・引率者	指導不足	1	1.7	0	0.0	1
注意不足		2	3.4	0	0.0	2	2.2
経験不足		1	1.7	0	0.0	1	1.1
人数不足		0	0.0	0	0.0	0	0
連携不足		1	1.7	1	2.7	2	2.2
準備不足		1	1.7	1	2.7	2	2.2
装備	不適切な服装	3	5.1	1	2.7	4	4.5
	装備不備	0	0.0	0	0.0	0	0
	装備不良(破損・劣化)	0	0.0	0	0.0	0	0
	施設・設備の故障・不具合	0	0.0	1	2.7	1	1.1
環境	荒天(強風、雷、吹雪等)	0	0.0	1	2.7	1	1.1
	気温	28	47.5	25	67.6	53	59.6
	日差し	26	44.1	12	32.4	38	42.7
	高度(標高)	0	0.0	0	0.0	0	0
	水深	0	0.0	0	0.0	0	0
	雪	0	0.0	0	0.0	0	0
	落石・落木	0	0.0	0	0.0	0	0
	不安定さ・滑りやすさ	0	0.0	0	0.0	0	0
	虫・動物	0	0.0	0	0.0	0	0
	植物	0	0.0	0	0.0	0	0
	病原体(ウイルス等)	0	0.0	0	0.0	0	0
	その他	4	6.8	4	10.8	8	9
不明	6	10.2	1	2.7	7	7.3	
回答者数	59		37		96		

※上記のパーセンテージは回答者数を基に計算

⑥ 病院受診別・環境別にみた熱中症（発熱）の発生件数・割合

熱中症（発熱）による病院受診の有無をみたところ（表 4-3-6）、「無」が 70 件、「日帰り」が 26 件となっており、「入院」はなかった。

環境ごとに病院受診の有無をみると、屋外活動・屋内活動ともに「無」（屋外活動 74.6%、屋内活動 70.3%）の割合が高かったものの、「日帰り」で病院を受診したケースは 3 割弱ほどあることが分かった。

表 4-3-6. 病院受診別・環境別熱中症（発熱）発生件数

病院の受診	屋外		屋内		計	
	件	%	件	%	件	%
無	44	74.6	26	70.3	70	72.9
日帰り	15	25.4	11	29.7	26	27.1
入院	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	59	100.0	37	100.0	96	100.0

⑦ 処置・静養後の対応別・環境別にみた熱中症による発熱の発生件数・割合

熱中症（発熱）の処置・静養後の対応をみたところ（表 4-3-7）、「活動継続」が 51 件、「帰宅」が 45 件となっており、処置・静養後の「活動継続」と「帰宅」はほぼ半数となっていた。

環境ごとに処置・静養後の対応をみると、屋外活動では 6 割強が「活動継続」（62.7%）であったのに対し、屋内活動では 6 割強が「帰宅」（62.2%）になっていたことから、屋内活動で発生した熱中症（発熱）のほうが帰宅する割合が高いことが分かった。

表 4-3-7. 処置・静養後の対応別・環境別熱中症（発熱）発生件数

処置・静養後	屋外		屋内		計	
	件	%	件	%	件	%
活動継続	37	62.7	14	37.8	51	53.1
帰宅	22	37.3	23	62.2	45	46.9
不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	59	100.0	37	100.0	96	100.0

IV. 傷病の特徴と今後の安全対策

1. 負傷の特徴と安全対策

(1) 負傷の特徴

- 負傷が多かった症状は「打撲」「ねんざ」「虫さされ」で、打撲では「頭」の負傷、ねんざでは「足首」の負傷、虫さされでは「手・指」の負傷が多くなっている。
- 負傷が多かった活動は「スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）」「オリエンテーリング・ウォークラリー」「自由時間」で、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「ねんざ」「打撲」「虫さされ」が多く、オリエンテーリング・ウォークラリーでは「ねんざ」「虫さされ」「打撲」「すり傷」、自由時間では「打撲」「きり傷」「すり傷」「虫さされ」による負傷が多くなっている。
- 活動で負傷した時の主な状況をみると、スポーツ活動（野球、サッカー、テニス等）では「試合中に相手選手と接触して転倒し、右肘が床にぶつかり骨折」「柔道の練習中、技をかけられて返そうとした際に左膝の靭帯を損傷」、オリエンテーリング・ウォークラリーでは「坂道を下っていたところ、足がもつれて転倒し、胸部を地面に打ち付け骨折」「山道を歩いて下っていたら、足がもつれて転倒し、手首を骨折」、自由時間では「ロフトから降りる際、足が滑って転倒し、左手を骨折」「追いかけっこで転んだ際に手をついて手首を骨折」といった状況で負傷している。
- 負傷が発生した時間をみると、活動（午前）・活動（午後）ともに後半の時間帯になるにつれ、負傷の割合が高くなる傾向がみられる。
- 負傷した要因をみると、本人の「不注意」「不慣れ」「失敗」、指導・引率者の「注意不足」「指導不足」、環境の「虫・動物」「不安定さ・滑りやすさ」が多く挙げられている。

(2) 今後の安全対策

<研修支援における安全管理や安全指導の点検・改善>

- 「オリエンテーリング・ウォークラリー」については、前回調査に比べ、負傷に占める割合が高くなっており、けがをした状況をみると、足を滑らせたたり足がもつれたりして転倒し、ねんざや打撲、骨折といったけがをしているケースが複数見受けられた。
- 新型コロナウイルスの流行による行動制限によって子どもの体力や運動能力の低下が指摘されるなか、オリエンテーリングやウォークラリーや登山といった長い時間歩く活動では、活動の後半の時間帯になるにつれ、疲労によって足がもつれたり、滑らせてしまったりし、ねんざや打撲といったけがにつながっているのではないかと推察される。
- 新型コロナウイルスの流行で活動を控えていた利用団体が戻りつつあるなか、施設からは、今までは起きていなかった負傷が増えているという話を聞くことがある。そのため、施設においては、新型コロナウイルスの流行以前とは状況が異なり、子どもたちの運動不足や体力・運動能力の低下を想定しながら、研修支援における安全管理や安全指導（事前打ち合わせやセーフティトーク等）の内容を点検するとともに、必要に応じて改善を図る必要がある。

<活動前・活動中の安全指導の徹底と状況に応じた安全管理や安全対策の実施>

- これまでの調査結果と同様、負傷の要因の大半を「本人」の要因（不注意、不慣れ、失敗等）が占めているものの、「指導者・引率者」の要因を指摘する回答も2割弱あることから、今後の安全対策として引き続き以下の点に留意する必要がある。
 - ・指導者や引率者、施設職員等は、入所時や活動前の安全指導（施設ではどのような事故やけがが起きやすいのか、それらはどうすれば防げるのかをイメージしやすいように、具体例を

交えて分かりやすく説明する等)を徹底し、利用者の安全意識(自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等)の向上に努めるようにする。

- ・指導者は、活動前だけでなく、活動中も事故やけがの予兆を見逃さないよう危険の発見、把握に努め、状況に応じて適切な安全指導や安全対策を行うようにする。特に、活動の後半は慣れや疲れ等で気が緩みやすくなるため、参加者に適宜声をかけたり、休憩をとるように指導する。

○上記の点を踏まえ、施設では、事前打ち合わせやプログラム体験会等の際に、施設で起きやすい事故やけがとその安全対策をきちんと説明し、利用団体の指導者・引率者が適切な安全管理や安全指導を行えるように支援する。その際、指導者・引率者の人数や体制だけでなく、活動に対する理解や経験なども確認し、利用団体の状況に応じた支援を行うようにする。

2. 疾病の特徴と安全対策

(1) 疾病の特徴

- 発症した疾病の症状をみると、発熱、頭痛、嘔吐が上位を占めており、いずれの症状も本人の「疲労」が主な要因として挙げられている。
- 疾病の申し出があった時間をみると、他の時間帯に比べ、起床・朝食や昼食の時間帯に疾病の申し出が多い傾向がみられた。
- 疾病が発症した時期をみると、6割以上が急に体調を崩しているが、疾病を申し出た者の2割強は朝や前日など事前に体調不良を感じている。
- 疾病が発症した後の対応をみると、疾病を申し出た者の半数は帰宅している状況にある。

(2) 今後の安全対策

- 施設での生活は、普段の生活とは異なり、慣れない環境による不安や緊張で寝不足になったりすることもあり、その上、普段の生活より活動量が増えるため、思った以上に疲れがたまりやすいたことが想定される。そのため、体調を崩し、発熱や頭痛、嘔吐といった症状が出てしまうと、病状によっては休養しても活動を続けることが難しくなり、帰宅しなければならないことも考えられる。
- 指導者は、施設生活の特性を理解し、計画段階では、利用者の年齢や体力に合わせた無理のない活動計画を立てるとともに、利用期間中は、定期的に健康チェックを行い、疲れている様子が見られる利用者には適宜休憩を取らせ、体調を崩さないように配慮するなど、利用者の疲れ具合や体調に合わせた柔軟なプログラム運営を心がけるようにする。
- 特に、夏季に屋外でスポーツ活動を行う場合は熱中症に注意が必要である。「気温・湿度が高い日は、長い時間、屋外で活動しない」「適宜、風通しのよい涼しい場所で休憩する」「水分や塩分(スポーツドリンクなど)をこまめに補給する」「十分な睡眠をとり、食事をきちんととる」など、熱中症の正しい予防法を学び、普段から気をつけるようにする。

3. 熱中症(発熱)の特徴と安全対策

(1) 熱中症(発熱)の特徴

- 熱中症(発熱)の8割強は6月~9月の4か月間で起きており、6月から7月にかけて多くなっている。また、熱中症(発熱)の発生は屋外活動のほうが多いとは限らず、9月や5月などは屋内活動のほうが多くなっている。
- 熱中症(発熱)の多くは晴天時に起きているが、2割弱の熱中症(発熱)は雨天や曇天時に起きている。

- 屋外活動における熱中症（発熱）の発生は10時～16時の時間帯で多くなっており、特に11時や15時など活動の後半に当たる時間で多くなっている。屋内活動における熱中症（発熱）は19時～22時の夜の活動の時間帯で多くなっており、21時が最も多い時間となっている。
- 屋外活動における熱中症（発熱）の半数近くは「オリエンテーリング・ウォークラリー」や「登山・ハイキング」で起きている。屋内活動では、「自由時間」や「就寝時間（起床時も含む）」で熱中症（発熱）の発生が多くなっている。
- 屋外活動で発生した熱中症（発熱）の要因は、気温や日差しといった環境に係る要因だけでなく、疲労や体力不足、不慣れといった本人に係る要因も高い割合となっている。
- 施設で発生した熱中症（発熱）の3割弱は病院を受診している。また、屋内活動で起きた熱中症（発熱）では、処置・静養後に帰宅しているケースが6割強となっている。

（2）今後の安全対策

熱中症の予防には、「気温・湿度が高い日は、長い時間、屋外で活動しない」「適宜、風通しのよい涼しい場所で休憩する」「水分や塩分をこまめに補給する」など、熱中症の正しい予防法を学び、その実践に努めることが大切である。その上で、施設の活動や生活において熱中症を予防するには以下の点にも留意する必要があると考える。

＜熱中症予防には参加者の疲労や体力、活動経験を考慮した指導が大切＞

熱中症を未然に防ぐには、気温や日差しといった環境にだけ目を向けるのではなく、疲労や体力不足、不慣れ、不安・緊張といった本人の様子もよく観察し、状況に応じて体調確認しながら活動を行うようにすることが大切である。

- ・オリエンテーリング・ウォークラリー、登山・ハイキングなど体力を要する野外活動を行う際は、当日の活動環境（天候、気温、湿度、暑さ指数等）と参加者の体力や疲労具合、活動経験を考慮しながら、必要に応じて活動時間を調整したり、活動内容を変更したりする。
- ・屋外活動では、11時や15時など活動の後半に熱中症の発生が多くなることを念頭におき、活動の状況や参加者の様子を見ながら休憩や水分補給、体調を確認する時間を設けたり、頭痛やめまい、吐き気、倦怠感（だるさ）といった症状を感じた場合はすぐに申し出るよう事前に指導する。

＜屋外活動だけでなく、屋内活動や就寝中の熱中症にも注意が必要＞

施設で発生した熱中症（発熱）は、オリエンテーリング・ウォークラリー、登山・ハイキング、カッター・カヌー・ボート・ヨットなど日中の野外活動でよく起きているが、夜に行う屋内活動（研修・学習活動、スポーツ活動、キャンドルセレモニー、自由時間等）や就寝中でも起きており、時期や天候によっては屋内活動のほうが多くなることがあるので注意が必要である。屋内活動で起きた熱中症（発熱）の6割強は静養後に帰宅していることから、安全・安心な環境づくりにおいて屋内活動の熱中症予防は重要な課題である。

- ・屋内活動で起きた熱中症の7割弱で気温が要因に挙げられていることから、屋内活動を行う際、気温や湿度、風通しなどを事前に確認し、活動の状況によっては休憩や水分補給の時間を適宜設けたり、頭痛やめまい、吐き気、倦怠感（だるさ）といった症状を感じた場合はすぐに申し出るよう事前に指導する。
- ・就寝中も熱中症が起きていることから、宿泊場所の室温や湿度が高く、風通しが悪い場合は必要に応じてエアコンをつけたり、扇風機を使って室内に風の対流が起きるようにする。また、就寝前や起床時に水分補給をするようにし、就寝中でも喉が渇いた時には水分補給ができるよう水筒にお茶を入れ、枕元に置いておくよう指導することも大切である。

傷病記録

(様式1③)

1. 傷病者

1-1. 傷病者の情報をお書きください。

団体名：_____ 氏名：_____ 性別：1. 男 2. 女
 年齢：_____ 歳 (1. 幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生 5. 大学生等 6. 社会人 7. その他)

1-2. けがが発生した又は病気の申し出のあった日時、環境、活動場所、活動内容、対応等をお書きください。

日時：20__年__月__日 __時頃(24時) 利用者数：_____名(うち指導者__名)

日程：全__日中__日目 天候：1. 晴 2. 曇 3. 雨 4. 雪 環境：1. 屋内 2. 屋外

活動場所：_____ 活動内容：_____

病院の受診：1. 無 2. 有(日帰り) 3. 有(入院) 処置・静養後：1. 活動継続 2. 帰宅

以下、病気の場合は「2.」、けがの場合は「3.」を記入し、最後に「4. 傷病の要因」についてお答えください。

2. 病気

2-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「発症時期」をお答えください。(○はそれぞれ1つ)

【症状】 1. 発熱(→ a. 熱中症による b. 熱中症以外による) 2. 咳・喉の痛み 3. くしゃみ・鼻水 4. 喘息
 5. 過呼吸 6. 頭痛 7. めまい 8. 吐き気 9. 嘔吐 10. 腹痛 11. 下痢 12. 生理痛 13. 歯痛
 14. 脱水 15. けいれん 16. 倦怠感(だるさ) 17. 発疹 18. 低体温 19. その他()

【時期】 1. 数日前から 2. 前日から 3. 今朝から 4. 急に 5. その他()

3. けが

3-1. 以下から最も当てはまる「症状」を選び、その「部位」と「程度」をお答えください。(○はそれぞれ1つ)

【症状】 1. きり傷 2. さし傷 3. すり傷 4. やけど 5. 日焼け 6. 凍傷 7. 打撲 8. 突き指
 9. ねんざ 10. 靭帯損傷・断裂 11. 脱臼 12. 骨折 13. 鼻血 14. 歯の破折 15. 眼のけが
 16. 虫刺され(→ a. アブ・ブヨ b. ハチ c. ダニ d. 毛虫 e. ムカデ f. クラゲ g. その他())
 17. かぶれ 18. 気道閉塞・誤嚥 19. 溺水 20. その他()

【部位】 1. 頭 2. 顔 3. 眼 4. 首 5. 肩 6. 上腕 7. 肘 8. 前腕 9. 手首 10. 手・指 11. 胸
 12. 腹 13. 背中 14. 腰 15. 尻 16. 大腿 17. 膝 18. 下腿 19. 足首 20. 足・指 21. 全身

【程度】 1. 軽微(その場で手当てできる軽いけが) 2. 軽傷(医師による1か月未満の治療を要するけが)
 3. 重傷(医師による1か月以上の治療を要するけが) 4. 致命傷(死亡・後遺症が残る重篤なけが)

3-2. けがをした時の状況(何をしていた、どのようにけがをしたのか)を具体的にお書きください。

4. 傷病の要因

4-1. 傷病が発生した要因と思われる事柄を以下から選んでください。(○はいくつでも)

【本人】 1. 失敗 2. 不注意 3. 不慣れ 4. 不適切な行動 5. 寝不足 6. 疲労 7. 不安・心配・緊張
 8. 体力不足 9. 人間関係(けんか、ふざけ等) 10. 既往症 11. アレルギー

【指導・引率者】 12. 指導不足 13. 注意不足 14. 経験不足 15. 人数不足 16. 連携不足 17. 準備不足

【装備等】 18. 不適切な服装 19. 装備不備 20. 装備不良(破損・劣化) 21. 施設・設備の欠陥・不良

【環境】 22. 荒天(強風、雷、吹雪等) 23. 気温 24. 日差し 25. 高度(標高) 26. 水深 27. 雪
 28. 落石・落木 29. 不安定さ・滑りやすさ 30. 虫・動物 31. 植物 32. 病原体(ウィルス等)

【その他】 33. その他(1.~32.以外の要因)()

施設記入欄

受理者：_____ ※受理者は記入漏れがないか受取時に確認してください。

【事業種別】 1. 研修支援 2. 教育事業 【No】 _____ (年度の通し番号)

安全は 楽しい活動の第一歩

スポーツ活動

(野球、サッカー、テニス等)



多いけが

- ①打撲②ねんざ③突き指

けがをした状況

- ボールをよけた時に人とぶつかって転倒し、後頭部を強打
- 走っている時に足をひねってねんざ

安全指導のポイント

- 活動中は周りをよく見ながら動くように指導する。
- 活動前にウォーミングアップやストレッチをして筋肉を伸ばし、体をほぐすようにする。



体験活動中のけがの多くは、本人の不注意や不慣れ、指導者の注意不足など、ヒューマンエラーによって起きています。

安全に楽しく活動できる環境を作るには、どのような活動でこういったけがやエラーが起きやすいのかをよく理解し、状況に応じて適切な指導や対策を行うことが大切です。

登山・ハイキング



多いけが

- ①ねんざ②虫さされ③打撲

けがをした状況

- 下山中、足場の悪いところで足をひねってねんざ
- 下山後、足首をみたらマダニがついていた。



安全指導のポイント

- 下山中は疲労で注意力が低下しやすいことから、適宜、休憩を取り、足場が悪いところは注意しながら歩くよう指導する。
- ハチやマダニの被害を防ぐため、登山に適した服装や着方(シャツの裾をズボンに入れる等)をするように指導する。

野外炊事



多いけが

- ①やけど②きり傷③虫さされ

けがをした状況

- 火起こしの時に火の粉が飛んできて腕をやけど
- 薪を押さえていた手にナタが当たり、指を切った。

安全指導のポイント

- 軍手、長袖、長ズボンなど野外炊事に適した服装をするように指導する。
- 包丁やナタの使い方を説明するだけでなく、誤った持ち方や動かし方を実際に見せながら安全な使い方を分かりやすく説明する。



自由時間



多いけが

- ①打撲②きり傷③すり傷

けがをした状況

- 友だちとぶざけて遊んでいたら壁に頭をぶつけて出血
- ベッドで跳んで遊んでいたら落ちてしまい、ベッドの角で足をぶつけて切れた。



安全指導のポイント

- 自由時間は気が緩みやすく、けがが多いことを伝え、安全意識(自分の身は自分で守る、他の人の安全にも気を配る等)の向上に努める。
- 廊下や部屋を走り回ったり、ベッドや階段で遊ばないように指導する。

これも気をつけたい! 熱中症



熱中症といえば、気温や日差しといった環境要因が目がいぎがちですが、疲労や体力不足、寝不足、水分不足といった本人の状態も影響してきます。また、屋外活動だけでなく、雨の日の屋内活動や夜の時間帯でも熱中症は起きているので注意が必要です。そのため、活動中は子どもの様子をよく観察し、無理のない活動を心がけるようにしましょう。

「熱中症を予防しよう-知って防ごう熱中症-」パンフレット→
(独立行政法人スポーツ振興センター HP より)




安全管理の3つのポイント

POINT 01

状況に応じた安全対策

計画段階ではできるだけ多くの危険を考え、活動中も危険の発見・把握に努めながら、状況に応じて適切な安全対策を行うようにしましょう。



五感を使って危険を察知

事故やけがにつながりやすいのは、危険があると一目では気づきにくい危険や、見落としやすい隠れた危険です。
想定外の事故やけがを起こさないように、活動中は五感をフルに活用し、隠れた危険を見落とさないようにしましょう。

Taste
変な味
熱い・冷たい
舌が痺れる

Hear
落ちた音
壊れる音
異常音
叫び声
怒鳴り声
泣き声

Smell
焦げ臭い
腐った匂い
オイルの匂い
雨の匂い

Touch
風
熱さ・冷たさ
へこみ・ゆるみ

Watch




活動前のチェックリスト

- 活動場所で危ないところがないか、使用する用具に破損がないかなどを点検しましたか？
- 気象情報（天気、気温、湿度、風など）を確認しましたか？
- スタッフ間で情報共有（子どもの人数や特性、役割分担、配置、禁止事項、緊急時の対応など）はできていますか？
- 子どもたちは活動に適した服装をしていますか？
また、持ち物も確認しましたか？
- トイレや水分補給を事前に済ませたか確認しましたか？
- 体の調子が悪い子どもや気分がすぐれない子ども、寝不足の子どもはいないか、活動前に確認しましたか？
- セーフティーク（安全指導）を行いましたか？

POINT 02

安全を確保できる体制づくり

一緒に指導するスタッフと、活動に伴う危険の情報を共有し、活動中の安全対策や事故が起きた時の対応を確認しておくなど、子どもの安全を確保できる体制を作るようにしましょう。



POINT 03

子どもへの安全指導

活動の心構えとして「自分の身の安全は自分で守る」ことを伝え、活動前には必ずセーフティークを行うようにするなど、子どもの安全意識の向上に努めるようにしましょう。

あせるとけがのもと！

階段では遊ばない！




安全に楽しむ第二步 「あしあとのむき」

施設で楽しく過ごすには、子ども自身が安全を意識し、行動できるようになることが大切です。6つの行動と心構えを大切にしましょう。

- 廊下や部屋では**あるき**ましょう
- 活動中は**しゅうちゅう**しよう
- 時間がなくても**あせ**らない
- 階段・ベッドは**とびおり**ない
- 疲れた時は**むり**をしない
- 自由時間も**き**をつけよう

「あしあと(の)むき」を意識して、安全に楽しく活動するようにしましょう。



「国立青少年教育施設における傷病の概況（令和4年度調査）」 実施体制

（調査・普及）

国立青少年教育振興機構教育事業部事業企画課

（データ処理）

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター企画室

（分析・執筆）

青 木 康太朗 国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター客員研究員
國學院大學人間開発学部子ども支援学科准教授

「国立青少年教育施設における傷病の概況（令和4年度調査）」 報告書

令和6年3月

編集・発行／お問い合わせ先

独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

（施設に関すること）教育事業部事業企画課研修支援係

電話番号 03-6407-7686 FAX 03-6407-7699

E-mail honbu-sien@niye.go.jp

（分析に関すること）青少年教育研究センター

電話番号 03-6407-7741 FAX 03-6407-7619

E-mail kenkyu-soumu@niye.go.jp
